

2025年度事業報告書

自 2025年4月 1日
至 2026年3月31日

一般社団法人東京国際金融機構

目 次

1. 当法人の現況に関する事項 4

- 法人概要 5
- 主要事業の経過及びその成果 7
- 主要事業
 - 概略 10
 - 海外プロモーション 11
 - 海外メディアを活用した認知度向上施策実施事業 68
 - 英文情報開示支援事業(Disclosure G) 77
 - 金融系外国企業発掘誘致事業(Attraction U) 79
 - 金融系外国企業ネットワーク事業 80
 - Emerging Managers Program 82
 - Tokyo Sustainable Finance Week実施事業 95
 - 都民向け金融セミナー実施事業 97
 - FCT旗艦イベント(FGF・TAMF) 99
 - 政策提言活動 103

目 次

- その他の活動
 - 代表理事の主な活動 105
 - 専務理事の主な活動 107
 - MoUの締結 110
 - イベントへの登壇・共催等 111
 - SusHi Tech Tokyo 2025への登壇・ブース出展 115
 - 会員交流会の開催 116
- 組織の安定経営に向けた体制整備等 120
- 重要な契約に関する事項 122
- 会員に関する事項 124
- 職員に関する事項 128
- 役員会等に関する事項 129
- 来年度に向けた取組みの方向性 132

2.役員に関する事項 133

- 役員に関する事項 134
- 退任した役員 136
- 役員の報酬等 137

2.業務の適正を確保するための体制等の整備についての決議内容の概要 138

1. 当法人の現況に関する事項

法人概要

一般社団法人東京国際金融機構(英文ではThe Organization of Global Financial City Tokyo、略称FinCity.Tokyoであり、以下、当法人)は、東京の金融市場としての魅力を高め、世界トップクラスの国際金融都市とすることを目的とし、2019年4月1日に日本初の金融プロモーション組織として設立された。



※金融庁、経産省、環境省、厚生労働省、総務省、内閣府、日本銀行等

法人概要:年表

FinCity.Tokyo設立準備時期 (2016～2018)

- 「国際金融都市・東京の在り方懇談会」設置(2016.11)
 - 東京都が「国際金融都市・東京」構想公表(2017.11)
 - 東京金融プロモーション組織設立のためのWG発足(2018.6)
- 主な参加者は、小池都知事、斉藤KKRジャパン会長、稲野日本証券業協会会長、有友FinCity.Tokyo座長補佐 等

FinCity.Tokyo活動

FinCity.Tokyo設立 (2019.4.1)

第一次中期事業計画(2021～2023) ”基盤整備フェーズ”

第二次(2024～2026) ”実行フェーズ”

2019年

2020年

2021年

2022年

2023年

2024年

2025年

- FinGate KABUTO(兜町)に事務所を設置(2019.4)
- Paris EuroplaceとMoU締結(2019.6)
- WAIFC(国際金融都市連盟)加盟(2020.3)

- 第1期中期事業計画(2021-2023)策定(2021.3)
- 東京都が「国際金融都市・東京」構想2.0公表(2021.11)

- アンバサダー制度創設(2022.4)
- アジア・欧米を中心に海外ロードショーを再開(2022.7～)
- 有友専務理事がWAIFCの会長に選任(2023.1)

- FinCity Global Forum in New Yorkを開催(2023.10)
- 第2期中期事業計画(2024-2026)策定(2024.3)

- ABAC東京会合(2024.8)
- 東京都との共同推進プロジェクト実施(2024.9)
- WAIFC退会(2024.12)

- ロードショー・ワークショップ実施(2025.4～)
- 森田専務理事が就任(2025.6)
- Frankfurt Main FinanceとMoUを締結(2026.2)

【コロナ禍】

主な事業

- Tokyo Asset Management Forumを開催 2017～(2020年度より「EMP事業」をFCTに移管)
- 「Attraction U」開始 2017～(2022年度よりFCTに移管)
 - 「FinCity Global Forum」を開催 2019～
 - 「ネットワーキング事業」を開催 2019～(2020年度よりFCT移管)～2025(終了)
 - 「Tokyo Sustainable Finance Week」を開催 2020～2025(2026年度より「Tokyo Sustainable Finance Forum」へ変更)
 - 「DisclosureG」を開始 2021～2025(終了)
- 「都民向け金融セミナー」を開催 2023～(2024年度よりFCT移管)～2025(終了)



ABAC東京会合
FCT主催イベント



EMFとMoU締結



国際金融都市・東京の在り方懇談会



2019年
FinCity.Tokyo設立記念式典



2017年6月知事定例記者会見



記念式典・知事挨拶



FinCity Global Forum(第1回)



Paris EuroplaceとMoU締結



FinCity Global Forum in NY

- 「Sush Tech Tokyo」に出展・セッション登壇 2025～



2025年度は、当法人の第二次中期事業計画(2024年度～2026年度)の2年目にあたり、「国際金融都市・東京」の実現に向け、「基盤構築フェーズ」から「実行フェーズ」への移行し、各種事業を充実させた年だった。

本年度は、以下の3つの柱を中心に事業を推進した。

1)国内外への情報発信の強化

海外ロードショーの体系的な展開、FCT独自イベントの開催、メディア事業の連携促進、MoUの活性化及びホームページ改修等により、国内外における認知度向上とネットワーク拡充を図った。

2)金融事業者等の新規参入の促進等

金融系外国企業の発掘・誘致、EMPなど、金融事業者等の新規参入促進に引き続き取り組んだ。

3)社会課題解決のための金融

国内外金融関係者の声をもとに、政府関係者、関係省庁に政策提言を行うとともに、新たな取組として、会員交流会を開催するなど、会員企業や東京都、関係団体等との連携を一層の強化を図った。

【国内外への情報発信】

- ロードショーの年間計画を策定し、ワークショップを通じて会員企業へ共有した。海外ロードショーの活動地域を「ハブ」と「スポーク」に整理して展開し、年間を通じて11回・14都市で実施した。
- 現地では、オープンフォーラムやラウンドテーブルなど、FCT独自のイベントを開催し、金融関係者とのネットワーク構築を拡充するとともに、メディアラウンドテーブルを現地において初開催した。現地メディア・記者からの直接取材を通じて、記事掲載数は前年度比で約2倍強となった。
- さらに、WAIFC脱退後、各金融都市とのMoUを強化及び新規締結を進め、今後も継続的な情報発信機会の確保や国内事業への還元、会員勧誘等につなげた。
- また、上記の取組みをHPやSNS等を通じて効果的に発信していくにあたり、HPの全面改修を行うなど、プロモーション活動の充実と強化を図った。これにより、国内外への継続的な情報発信基盤を整備した。
- さらに、旗艦イベントであるFinCity Global Forumを2019年度より継続開催した。2025年度は、直近の政策動向や市場トレンドに加え、デジタル通貨、インフラ投資等のテーマを取り上げ、国内外の金融関係者間の対話・交流促進及び東京市場のプレゼンス向上につなげた。
- Tokyo Sustainable Finance Week実施事業においては、サステナブルファイナンスフォーラム及び中堅・中小企業向けセミナーを実施した。参加者数は前年度を上回り、一定の定着が図られた。今後は、Japan Weeksの主催者である金融庁や同時期のイベント主催者である資産運用会社や金融機関等と連携し、同分野における取組の機運醸成、当法人の認知度向上、会員企業の登壇促進等に取り組んでいく。

【金融事業者の新規参入の促進等】

- 金融系外国企業発掘誘致事業(Attraction U)においては、支援の結果、一定の資産運用残高規模を持った海外資産運用会社等が東京進出を果たした。2024年度及び25年度の2年間の事業実施の結果、2026年度以降に東京に進出する複数のフィンテック企業及び資産運用会社のパイプラインをつくることができた。今後さらに本事業の認知度を高め、金融エコシステムの高度化に資する質の高い企業の発掘につなげていく。
- 金融系外国企業ネットワーク事業においては、今年度もネットワーキングイベントを開催し、登壇企業1社あたり8社以上のビジネスマッチングを達成した。その結果、NDA2件が締結予定。今後も東京都やステークホルダーと連携して事業化に向けた継続的なサポートを実施していく。
- EMPの普及促進事業においては、当初計画通り着実に個別支援を実施したほか、人材育成講座、ワークショップでも活発な議論が行われた。今後は支援企業への投資の呼び込みなど、目に見える成果に繋げるため、国内外投資家への更なる訴求を図っていく。

【社会課題解決のための金融】

- 日本の投資事業有限責任組合(LPS)における諸課題について政府関係者等と議論し、海外ロードショー等を通じて得た市場参加者等からの声を踏まえ、諸課題の解決に向けた政策提言を行った。
- 年3回実施した会員交流会では、公的機関のアセットオーナーや大学・行政関係者を招いた特別トークセッションをはじめ、国際金融とまちづくりの相関性、AI技術による金融の高度化など、多角的なテーマで最先端の知見を共有した。活発な議論や交流を通じて、会員企業、関係各所との連携・関係強化を図った。

民間の知見・ノウハウの活用が求められる取組み(プロモーション、業界の意見抽出など)を機動的に実施

『国際金融都市・東京』構想(2017年11月東京都)

目指す都市像

- ・アジアの金融ハブ
- ・金融人材・資金・情報・技術が集積
- ・資産運用業とフィンテック企業の発展に焦点
- ・社会的課題の解決に貢献

『国際金融都市・東京』構想 2.0(2021年11月東京都)

サステナブル・リカバリーを実現し、世界をリードする国際金融都市へ

- ①社会的課題の解決に貢献する分厚い金融市場の構築
- ②フィンテックの活用等による金融のデジタル化
- ③資産運用業者をはじめとする多様な金融関連プレイヤーの集積

FinCity.Tokyoは、「国際金融都市」の実現に向けて、民間の知見・ノウハウを活かして貢献し、行政主体としての都と協働するパートナー

推進者:官民連携組織(FinCity.Tokyo)

【取組方針】

都・国と連携した資産運用立国の実現への貢献

1. 国内外への情報発信

- ・海外ロードショー
- ・海外メディアを活用した認知度向上施策実施事業
- ・英文情報開示支援事業(Disclosure G)

2. 金融事業者等の新規参入の促進等

- ・金融系外国企業発掘誘致事業(Attraction U)
- ・金融系外国企業ネットワーク事業
- ・EMPの普及促進事業

3. 社会課題解決のための金融

- ・政策提言
- ・Tokyo Sustainable Finance Week実施事業
- ・都民向け金融セミナー実施事業

海外プロモーション

主な成果

- ワークショップで年間計画を理事会等と共有し、活動地域を「ハブ」と「スポーク」に整理して海外展開
- MoU等を通じてネットワークを拡大し、中東・欧州を中心に次年度ロードショーに向けた基盤を構築

訪問先	ソウル・東京	香港・マカオ	シリコンバレー	ロンドン	ロサンゼルス・オレンジカウンティ	シンガポール
期間	4/1,2 (4/3-4東京開催)	5/21-24	6/9-12	①6/26-7/4 + transition dialog 8/19,12/8,2/12	7/7-11	11/10-14
主な活動	・海外AOコミュニティのAIFイベントへ参加及びネットワーキング ・東京開催の誘致	・FOイベント「BEYOND Wealth Summit」の参加及びJapan Round tableの開催	・ Plug and Play Silicon Valley Summitへの参加・誘致活動	・Transition Finance ForumのCity of Londonとの共催	・LP投資家向けイベントや個別面談を通じて、海外LP投資家とのネットワークを構築	・iConnections登壇、ブース出展 ・メディア向けイベントの開催@SFF
訪問先	アブダビ・ドバイ	ドバイ	ロンドン・パリ・ルクセンブルク	マイアミ	ニューヨーク	
期間	12/9-12	1/13-14	2/9-13	2/23-26	3/9-12	
主な活動	●Abu Dhabi Financial Weekへの参加や個社訪問によるネットワーキング ●ADIO(アブダビ)・DIFC(ドバイ)など関係機関とMoUに関する協議	●Japan-Gulf Business & Investment Forum 2026への参加によるネットワーキング ●2月のUAEデリゲーションやMoU関連の協議	●日本証券サミットへの登壇 ●自主イベント(日本株やトランジションファイナンスのラウンドテーブル)の開催 ●Paris Europlace等関係機関への個社訪問	●iConnections Global Alts Miami “Japan Session” “Private Breakout Session”開催、ブース出展 ●個社訪問	●FGFinNYに向けたネットワーク、ラウンドテーブル開催 ●誘致対象企業のフォローアップ	

11

海外プロモーション:年間スケジュール

年		2025年								2026年			
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
テーマ	FCT	ロードショー ワークショップ (WS①②)	SusHi Tech Tokyo 2025	理事会 社員総会 WS③			理事会 WS④ 9/18	TSFW 10/15- 24		理事会 WS⑤ 12/19		FGF/TAMF 2/5	理事会 WS⑥ 3/27
	資産 運用	AIF Summit in 韓国/日本 (4/1-4)	BEYOND Wealth Summit in Macau (5/23- 24)		TIDE SPARK in California (7/7-11)			AIF Event with FCT (10/23)	iConnection s Global Alts in Singapore (11/10-12)	Abu Dhabi Finance Week (12/8-11)		iConnections Global Alts in Miami (2/23-26)	
	Fintech			Silicon Valley Summit (6/9-13)					Singapore Fintech Festival (11/12-14)			証券 サミット in London 2/11	
	サス ファイ				London (6/26-7/4)								
						→ #1「UK-Japan Transition Plan Dialogue」8/19		#2「UK-Japan Transition Plan Dialogue」12/8		#3「UK-Japan Transition Plan Dialogue」2/12			

赤字 :ハブ(主要な金融都市や特に参加するべき重要なイベント等)
青字 :スポーク(有望な渡航先として検討)

Copyright©2026 FinCity.Tokyo all reserved

韓国ロードショー (4/1-2) ①

Dates	4月1-2日(韓国開催)
AIF agenda	2025 AIF APAC Annual Investors' Meeting 基金投資家によるグローバルポートフォリオ戦略、プライベートエクイティ、プライベートクレジット、不動産、インフラ投資、リスク管理及び投資政策に関するroundtableを開催
Main Institutions	銀行・協会等(Bank of Korea, Korea Financial Investment Association)、公的年金基金(National pension, Texas, Maryland)、保険会社(AIA Life, K-Post)、資産運用会社(Apollo, J.P. Morgan AM, GSAM)etc.

Key Takeaways:

- アメリカの関税政策や地政学的な不安定さにより、投資家はリスク分散を目的に、投資地域の多様化(分散)を一層進めている。投資手法としては、**プライベート・エクイティ(PE)**や**プライベート・クレジット**など、**オルタナティブ投資への関心が高まっている**。
- インド・中国・日韓など、アジアは文化・経済ともに多様性が大きいため、これまで**オルタナ投資の浸透が遅れていた**。しかし、欧米で政治・地政学リスクが上昇する中、今後の経済成長が期待されるアジアにおいて、オルタナ投資を推進する意義が増している。結果として、アジア市場でのオルタナ投資の発展が加速する可能性が高い。
- **Direct Lending(直接貸付)**などの手法を用い、通常の投資対象とならない規模の**小さい企業に対する投資を模索**する投資家が出てきている。
- **Co-investment(共同投資)**を検討するアセットオーナー(AO)も複数見られたが、適切な**マッチングが課題**となっている。
- AIを投資分野に活用する動きが予想以上に急速に進展。
- 金融機関間での**AI人材の獲得競争が激化**しており、企業はこの流れに対応できなければ競争上不利に。そのため、企業は組織の柔軟性や雇用形態の見直し、**社会基盤としてのデジタルインフラの整備**が必要不可欠。

- 韓国が認識している年金基金などのAOの問題は、日本と類似している部分が多く、**アセットオーナープリンスIPの進展**についても韓国側から深い関心が寄せられた。
- 韓国内での政情不安もあり、**Japan Weeks**など日本の施策の盛り上がりなどについて関心が高く、韓国側から連携を模索する様子が強く伺われた。



- 今回のAIFで面会した人物(AIF参加していたAM/AO、韓国の年金基金など)には継続してフォローアップを行い、ネットワークを維持・強化する。
- Japan Weeksの時期に東京(FCTや他の機関)とも連携してイベントを開催したいという意向あり。機関投資家とネットワークする機会として連携する意義が見込まれるため、FCTとしての支援などを検討する。

(連携案)

- 東京からKey representativeを登壇させる(中曽会長ほか)
- イベント会場探しのアドバイスなどロジ支援を行うなど、Co-hostの体制を整える。
- 他団体との連携(後援など)支援。
- TSFWなどFCT主催のイベントやレセプションと連携し、ネットワーク機会を創出する。
- AIFが他の地域(カナダや豪州など)で実施予定のイベントへの参加など、ロードショーでの連携機会があれば参加を検討していく。

目 的

- 完全招待制のFamily Office(FO)を対象としたイベントである「BEYOND WEALTH SUMMIT」に参加することを通じて、**国内外FOとの接点を構築**する。
- 同イベント内にて**日本への投資をテーマにしたFCT企画「Japan Session」**を企画し、海外FOに対して日本の投資環境の現状を発信し、feedbackを得る。
- 個社訪問を通じて、**誘致対象先(Fintech, AM)のフォローアップ**を行う。

	Tue 20 May	Wed 21 May	Thurs 22 May	Fri 23 May	Sat 24 May	Sun 25 May
	香港			マカオ		
9:00-13:00		香港個社訪問	Greenwich Economic Forum HK	BEYOND WEALTH SUMMIT	BEYOND WEALTH SUMMIT	帰国
13:00 - 17:00	到着		香港個社訪問	(午前中) FCT企画・登壇 Japan session		
17:00 -				VIP Private Dinner		

- BEYOND WEALTH SUMMITの主催者は、Asian Family Legacy Foundation(AFLF)。約450のファミリーオフィス(FO)が参加する財団で、ファミリーのグローバルなネットワーク構築、持続可能な資産管理を可能にするための次世代教育、世代間対話、リーダーシップ育成などのプログラムを提供している。日本のFOも複数含まれる(例:資生堂、キッコーマン、鈴廣かまぼこ、スズキなど)
- BEYOND WEALTH SUMMITは、各国の300以上のFO、機関投資家などの業界関係者が参加する招待制のイベントで、グローバルな資産配分、資産管理、次世代リーダーシップ、最先端技術への投資、慈善活動、インパクト投資などをテーマとしたセッションが多数開催された。
- 同イベント内で、日本への投資をテーマにした「Japan Session」をFCTとして企画し、有友がモデレータとして登壇
- 「Japan Session」には、海外Family Officeを中心に約35名が参加した。
- 参加者の9割以上は香港および中国本土からの参加という印象。日本のFOは2名(資生堂、ミツカン一族)。
- Family Officeは、本イベントのようなクローズドな場で投資情報を共有する傾向があり、Family Office以外の方も参加するオープンなイベントにはあまり参加しないという声が多かった。

テーマ	"Opportunities and Challenges: Navigating Japan's Investment Landscape for Family Offices"
開催日時	2025年5月23日(金)午前9時30分～10時45分
Key Question	How can Japan become more investor-friendly ? ➢ What are the most attractive investment opportunities in Japan for Family Offices? ➢ What are the key barriers and risks for Family Offices entering the Japanese market?

Key Quotes:

- 「日本の**Public Equity**は、ガバナンス改革を通じた**企業価値向上の余地がある魅力的な投資先**である。」
- 「日本は”グローバル市場における**ニッチマーケット**”であるため、**日本ならではの独自性**を持つ投資機会やマネージャーに注目している。」
- 「一方で、日本の成長や改革の議論には既視感が強く、同じ変革の話は聞き飽きた」
- 「補助金の話より、投資案件の話を聞きたい」



シリコンバレーロードショー（6/9-12）概要

June	Sun 8th	Mon 9th	Tues 10 June	Wed 11 June	Thurs 12 June	Fry 13 June	Sat 14th
Activities	到着	PnP AI Summit参加	PnP Silicon Valley June Summit参加	PnP Silicon Valley June Summit参加	PnP Silicon Valley June Summit参加	出発	帰国

Plug and Play Silicon Valley June Summit 2025@サンフランシスコとは

- Plug and Playが主催する同社最大級のイベント。スタートアップと大企業が技術革新を軸に協業するグローバルイノベーションのショーケース。複数の業界テーマに沿ったピッチやデモ、投資家向けセッションを通じて、新たなパートナーシップや事業連携が生まれる場となっている。想定来場者約4,000名

シリコンバレーロードショー（6/9-12）Key Activities および結果(Overview)

- 現地スタートアップ(SU)へのリーチアウト＆面談設定
 - SU及び投資家、大手金融機関を中心に、102件へリーチアウト
 - 約30社当日面談(各社約10-15分)
 - うち、後日面談＆要フォローアップが40件程度
 - 誘致事業のスコープに入るようフォローアップを継続
- デモブースの設定及び訪問者数
 - 1日目:20人程度
 - 2日目:10人程度
 - 3日目:5人程度(※途中からブースではなくネットワーキングに参加)
 - 誘致対象になり得る企業についてフォローアップを継続
- 東京の金融エコシステムについて参加者と意見交換



ロンドンロードショー（6/26-7/4）① 日程

Sun	Mon	Tues	Wed	Thurs	Fri	Sat
22 June	23 June	24 June	25 June 到着	26 June ◇Investment Association Annual Conference 参加 (8:00-17:00)	27 June ★Bloomberg・GFANZ共催 ビジネスラウンド テーブル (12:30-14:30) ●CBI面談 (15:30-)	28 June
29 June	30 Jun ●TCUK事前打合せ (10:00-10:45) ◇Nomura Advisory Forum 参加(14:30-18:30)	1 July ●会場視察 (9:00-14:00) ●個社訪問(現地資産運用会社等) ●Investment Association面談 (15:00-16:30)	2 July ★Media roundtable (7:00-11:00) ●現地年金基金運用会社面会 (9:00-10:00) ●個社訪問(現地資産運用会社、FinTech等) ●E3G面談 (15:00-16:00)	3 July ★FCTイベント開催 (7:00-15:00)	4 July ●TCUKとのイベント振り返り ●個社訪問(現地資産運用会社) ●クレアロンドン事務所	5 July 帰国

● 現地誘致候補企業との個別面会(6月26日～7月4日)

- **T社**: 現在伴走支援中、規制面の課題に直面し計画に遅れが生じている為、ステータス確認
- **D社**: NYに設立されたRegtech企業。伴走支援のビジネスマッチングに関心
- **W社**: Preqinの競合、iConnectionsのようなLP/GPのためのカンファレンス事業も行う。
日本での開催に関心。ほか、計5社と面談

● 現地ステークホルダーとの個別面会(6月26日～7月4日)

- **Sean Kidney氏**(Climate Bond Initiative CEO)との面会
- **Nick Mabey氏**(E3G CEO※LCAWの主催団体) ほか 5件程度実施
 - それぞれ、今後のロンドンでのイベント共催や金融関係者の紹介などで連携することで合意
 - 今後訪日が予定されている人物とは連携可能性を模索

● Bloomberg社と共催による**ビジネスラウンドテーブル**の実施(6月27日)

- 日英関係者など20名程度が参加。今後フォローアップし協業継続を模索

● 在英記者との**メディアラウンドテーブル**(7月2日): 詳細は別紙(海外メディア事業で説明)

● **Transition Finance Forum**の開催: 120名程度の現地参加を獲得・詳細は次頁以降に記載。(7月3日AM)

● **Transition Finance Roundtable**の開催: 引き続いて20名程度で有識者のラウンドテーブルの開催: 詳細は次頁以降に記載。

日時:7月3日(水)9:00-12:00、参加者:会場116名(うち日系企業52社、海外企業64社)、オンライン約60名

(基調講演)

Lord Sharma(Chair of UK Transition Finance Council)

:脱炭素化を実現するためには、①**初期段階の革新的な技術への投資**、②**排出削減が困難な産業セクターへの投資**、③**新興国への投資を加速**する必要があり、これらの問題意識から英国ではTransition Finance Councilを立ち上げて、オープンで信頼性のある、脱炭素化に貢献する金融機能を強化するべく取り組んでいる。この点、トランジションファイナンスについて**日本の経験を取り入れ**、世界的に**相互運用可能な脱炭素化**のアクションを加速したいと考えている。



Alok Sharma氏

中曽 宏(FinCity.Tokyo Chairman)

:日本にとって脱炭素化とは多額の投資を伴って**日本の潜在成長力**を引き上げる重要な「成長戦略」である。日本は既に**23社がトランジション債を発行**しており、国外でもASEANタクソミーというトランジションファイナンスに親和性のあるフレームワークが登場し、地域横断的な脱炭素化の取り組みに向けたアクションが加速している。今後のアクションの例として①APAC地域に相互運用可能な**Voluntary Carbon Creditの市場を立ち上げる**こと、②脱炭素に伴う長期投資における為替リスクを低減するために、WPU(World Parity Unit)といわれる**多通貨バスケット指数**を利用した金融手法の開発、普及などがある。



中曽会長

(パネルディスカッション)

内容:トランジションファイナンスの実践における機会と課題

David Harris:年金基金などの多くの機関投資家がESG投資判断に組み込む中、ESG投資はすでに大きな市場を形成。脱炭素化の移行は世界的な課題で、GXは国際的なスケールでの投資機会が広がっている。

石川 知弘:脱炭素化の実現には、依然として膨大な資金需要が存在しており、金融側からみると大きな投資機会である。一方で、移行の実行には貸し手側の努力だけでなく、中小企業含め実体経済側の行動が不可欠。企業や消費者がサステナブルな選択を取れる環境づくり、行動変容を促す仕組みが求められる。

David Semaya:日本企業のコーポレートガバナンス改革や日本の年金基金の運用指針の進展、資産運用業界の長年のエンゲージメントにより、日本におけるサステナブル投資の機運は大きく高まっている。一方でGXの更なる推進には、発行件数や流動性の拡充が必要。今、日本には過去にないほどの関心が寄せられており、日英間の連携を強化する好機。

Christine Chow:中長期的な脱炭素化の実現に向けて、信頼性のあるデータの整備が不可欠。加えて、企業側の情報開示の質の向上と投資家・金融機関の対話の内容を深めていく重要性を指摘。脱炭素化シナリオを含めた開示の先行事例として、パナソニック(日)やシェル(英)などの企業を紹介。

(ネットワーキングでの反応)

○東京がCity of Londonと明確なテーマで連携し、London Climate Action Weekの機会を活用して日本人有識者の存在感を出したことに對して肯定的な評価があった。一方、日本のプレゼンスを高めていくには、今後も継続した参加と発信が不可欠との指摘もあり、議論の発展と今後のフォローアップへの期待感が寄せられた。



ロンドンロードショー (6/26-7/4) ⑤ Transition Finance Business Round table(CoL共催)

○日時 7月3日(水)13:00-15:00

○登壇者 21名(日本側:GX推進機構 高田 英樹氏、MUFG 石川 知宏氏、日本生命 大久保 亮氏ほか
英国側:Vanessa Havard-Williams氏、Faith Ward氏、Christine Chow氏ほか
※いずれもTransition Finance Forum関係者)

(テーマ1)Establishing Credibility in Transition Finance: Guidelines and Credibility

内容:

○トランジションファイナンスは、中長期的なエンゲージメントを通じて、**企業や産業の実態に即した脱炭素化を促進する仕組みとして有効**。プリンシプルベースの柔軟なアプローチは信頼性を担保しつつ、現実的な移行を支えるとの意見があった。

○英国と日本の間では定義の不一致は見られるものの、GXや脱炭素化の取組を経済協力の文脈で捉えることで、両国にとって**持続的な成長の機会**につながるとの期待が示された。

(テーマ2)The Role of Sector Roadmaps in Unlocking Transition Finance

内容:

○日本の官民連携によって作成されたロードマップは、**投資の方向性を明確に示すモデル**として評価された。特に策定段階で**民間の積極的な関与を促す**ことで、技術的な現実性が確保されている点が重要とされた。

○一方、ロードマップは、**技術革新や市場変化に応じて更新されるべき**であり、他国展開においては、各国事情に合わせた柔軟な適用が重要。英国は高い政策目標に対して資金供給の仕組みが不十分との指摘があり、「**何をするか**」だけでなく、「**誰が、どのように資金を拠出するか**」の**明示**が信頼性向上に不可欠という意見があった。

(テーマ3)Practical Solutions for Scaling Transition Finance

内容:

○中小企業にとっては、**脱炭素化対応は依然として大きな負担**となっており、データ作成や金融機関の審査対応に関しては、**行政の支援が不可欠**との指摘があった。

○具体的には、ブレンデッド・ファイナンスの活用や関連文書の標準化、中小企業向けのモデルケースの提示といった支援策が求められている。



Business Roundtableの様子①



Business Roundtableの様子②

ロサンゼルスロードショー（7/7-7/11）①目的

Dates	7月7日(月)-11日(金)
Purpose	米国西海岸を拠点とする海外投資家(主にLP)に対して、日本の投資環境に関する情報を発信し、関係構築を図る。その中で、FCTのEMPの取組も紹介し、日本のEMへの関心を喚起する。
Activities	● LP・GP投資家向けイベント「TIDE SPARK」(7月9日・10日開催)への参加 ● LA拠点の投資家との個社面談
Events to attend	TIDE SPARK(LA近郊開催・7月9-10日)
Key Targets for a meet-up	米国西海岸拠点を中心とした海外LP・GP投資家
Key Messages	● 日本の投資機会の現状について ● FCTのEMPの紹介

イベントの内容

- 主催者: The Investment Diversity Exchange(TIDE)
 - 米国の主要LP投資家(CalPERS、CalSTRS、VRS等)が中心となり支援
- 運営方針: **Chatham House Rule**(発言者の氏名・所属は口外不可)、メディア参加禁止
- 開催形式:
 - 会場構成: メインセッション用の大部屋、ブレイクアウトセッション用の小部屋、部屋前にネットワーキング用のスペース
 - ランチ・ディナー以外の時間帯でセッションとネットワーキングが同時並行
 - 企業ブースは無し／ランチ・ディナー時にはネットワーキングのみが実施
- 参加者構成(約500名):
 - **LP**(Asset Owner / Allocator):約**30%**
 - └ 目的は主に**他のLPとの情報交換**
 - **GP**(Asset Manager):約**70%**
 - └ 目的は**LPからのFundraising**
 - 日本人はFCTの村井1名、感覚値としては約80%は米国(LPは主にCalifornia、GPはNY多数)在住

ロサンゼルスロードショー（7/7-7/11）③TIDE SPARKとGlobal Altsの比較

比較項目	TIDE SPARK	Global Alts
規模・方針	●参加人数:500名 ●期間:2日間 ●Chatham House Rule ●ブース無し	●参加人数:6,000名(2025年のMiami) ●期間:4日間(2025年のMiami) ●登壇コンテンツはYoutubeに残る ●ブースが会場の大部分(LP以外が出展)
LPとの 接点構築	会いたいLPを空間的に見つけることが容易	会場規模およびブースの存在により、会いたいLPを空間的に見つけることが難しい。
GPとの 接点構築	ネットワーキングを通じて、接点を構築することは可能だが、ブースが無い場合、Global Altsと比較して狙い撃ちがしづらい。	GPはブース出展しているため、ブースへの訪問を通じて、会場内のGPとの接点構築することが可能

- Cold Callでは接点が作れなかったLPと現地で初対面できた。
 - 多くのLPは“他のLPからの紹介”を信頼し、Cold Callは基本無視する。
 - 「日本関係者と会う機会が少なく、他エリアと比較して日本は情報が入りづらいため、このようなイベントに日本から来てくれることは貴重」という声が多数あり。
- LPの日本に対する投資状況を以下3パターンに分けると、イベントで会話したLPは、「1」or「2」。
 - 1) 日本へのエクスポージャー無し
 - 2) エクスポージャー自体はあり(日本専用のGPへは委託していない)
 - 3) 日本専用のGPへ委託
- イベントの性質上、参加GPは、日本市場を「投資先」ではなく「販売先」として捉えているケースが大半
 - 会話したGPの全てが「日本に拠点設置する必要が無い」というコメント
 - 販売先(アプローチ先含)の顧客名として頻出したのは、ゆうちょ銀行様、日本生命様

TIDE SPARKについて

Photos



Key Quotes from LP Investors (1/3)

UCLA Investment Company

- 公立大学。カリフォルニア州の大学としては最も学生数が多い。
- 10校から構成されるUniversity of Californiaのうち、UCLA、UC Berkeley、UCSFの3校のみが独立したInvestment Officeを保有
- パッシブやインデックス型ではなく、集中投資・ファンダメンタル重視・Long Only型戦略を好む。



Key Quotes

● 日本への投資について

「現在、日本に特化したマネージャーへのエクスポージャーは無し」

「**日本企業のコーポレート・ガバナンス改善**に取り組む**アクティビスト**や**エンゲージメントファンド**に関心が有り」

「2025年8月18～20日に、2019年以来初めて**日本へ訪問**を行う。現場理解の機会として。」

● トランプ政権下でのEndowment Tax(エンダウメント課税)案に対して

「UCLAは公立大学なので、Harvardのような私立大学とは異なり、影響は無し」

Key Quotes from LP Investors (2/3)

University of Southern California (USC)

- カリフォルニアで最も古い私立大学。

Key Quotes

- 日本への投資について

「日本に特化したアクティビストファンド(Public Equity)に投資実績あり。」

「**2025年秋に日本を訪問する可能性**がある。」

「ファンドマネージャー選定においては、tenureやsizeよりも**pedigree(前職でのトラックレコード・バックグラウンド)**を重視。」

- トランプ政権下でのEndowment Tax(エンダウメント課税)案に対して

「USCは私立大学ではあるものの、税が課される対象要件(学生数、学生1人あたりのAUM等)」に該当しないため、影響は無し。



Key Quotes from LP Investors (3/3)

Caltech Investment Office

- 「西のCaltech、東のMIT」で知られる理工系の私立大学



Key Quotes

- 日本への投資について

「現在、日本に特化したマネージャーへのエクスポージャーは無し」

「過去18ヶ月の間に、日本市場への関心を持ち始めた」

「日本には家業的な企業が多く、経営者の高齢化にともなって事業承継が進みにくい。このため、後継者不在による買収ニーズが高まっており、**バイアウト市場にとって大きなチャンス**になると考えている。」

- トランプ政権下でのEndowment Tax(エンダウメント課税)案に対して

「当初案(2025年5月)では、**最大で21%**の税率が適用される予定だった。CaltechはHarvardのように巨大な基金を持っているわけではないが、学部生数が少ないため、学生1人あたりの運用資産がUSD2Mを超え、**累進課税上の最も高い階層(Tier)に該当した。**」

「新しいエンダウメント課税は、年間の収益に対する課税を想定しており、特にインカムゲイン(利息・配当)に即時課税がされやすい。一方で、キャピタルゲイン(売却益)はタイミングをコントロールできるため、課税回避や繰延が可能。そのため、インカムゲインを目的に行う**クレジット投資については今後新規に投資をすることは控える方向で検討していた**」

「ただし、7月4日にトランプ大統領が署名した最終案においては、**学生数が3,000名以下の大学であるCaltechは、課税対象外**となった」

シンガポールロードショー (11/10-14)

10 Mon	11 Tue	12 Wed	13 Thr	14 Fri
iConnections Global Alts Asia 2025@Marina Bay Sands				
		9-18Singapore Fintech Festival @Singapore EXPO		
個社訪問(計6社)	9-17 ブース出展@iConnections		11-12 Media Event	現地日本大使館金融 担当官及びMASと面 談。個社訪問(2社)
	11-11:30 Japan Session @iConnections	ブース対応 ネットワーキング ランチネットワーキング 参加(竹腰)		
	ブース対応	SFF会場下見 & 誘致個社面談 (計7社)		
	17- GFTN主催 Japan Reception @日本大使公邸			
	iConnections主催 Speaker Reception			
18-20 iConnections 主催 Reception		個別取材対応(2社)	JPXイベント参加	
		DBSシンガポール訪 問 SFFにて個社面談		
		平和不動産イベント参 加		

:主催セッション

iConnections Global Alts Asia 2025

@Marina Bay Sands

- オルタナティブ投資業界向けのキャップイントロイベント。
- 2024年は、17カ国以上から約220のファンドマネージャー、約230の機関投資家が参加

Singapore Fintech Festival

@Singapore EXPO

- 世界最大級のフィンテックイベント。
- 2025年の参加者数は過去最大約7万人。142カ国から参加。

FCTブース出展@iConnections Global Alts Asia 2025 (11/11, 12)



- 今回のiConnectionsでは、海外GPのAPAC担当者や、日本の新興運用業者(EM)への資金拠出に関心を持つファミリーオフィスやFoF等のLPとの新たな接点構築ができた。
- 日本からの他参加者との意見交換も実施。(LP投資家 3社、EM 3社、大手証券会社 2社、ソリューションプロバイダー 1社)
- 主なブース来訪者は以下のとおり

組織	Next Actions
Abu Dhabi Investment Authority	12月の中東ロードショーでの面会等、引き続き関係構築
ロンドン・投資運用会社	日本進出に関心あり。誘致事業の対象とはならなさそうだが、調査・関係を継続
アジアを中心にプライベートエクイティ不動産投資を展開	東京市場に興味あり。誘致事業の対象とはならなさそうだが、調査・関係を継続
アジア・マルチファミリーオフィス	日本EMへの投資に関心があるためデータベースの情報を求めている。EMPヒアリングを調整。
グローバル・マルチマネージャーファンド	日本EMへの投資に関心がある。AOではないが、拠点設立の関心も含めて調査・関係を継続
スイス/ベトナム拠点・グローバルマネージャーのFoF及びベトナム株運用	日本EMへの投資に関心がある。AOではないが、今後の日本へのビジネス拡大も含めて調査・関係を継続

Japan Session@iConnections Global Alts Asia



YouTube 動画

タイトル	Japan's Investment Landscape
ターゲット	日本市場に興味のある投資家、運用会社
日時	11/11(火)11:00-11:30
場所	Main stage, iConnections Global Alts Asia, Marina Bay Sands
テーマ	資産運用立国政策が進行する日本でのプライベートアセット・ヘッジファンド投資におけるビジネス機会について
登壇者	パネリスト ・ニッセイアセットマネジメント執行役員 大西 かおる氏 ・Chronus Capital AdvisorsCo-Founder & CIO Philip Partnow氏 ・JPX染井 健吾氏 モデレーター ・FCT 竹腰
出席者	iConnections参加者約70名 + オンライン視聴

アーカイブ動画

<https://www.youtube.com/watch?v=wuQVhxlIUJ4>

Media Event@Singapore Fintech Festival



タイトル	Unlocking Tokyo: the next wave in Fintech and DeFi 東京を解き放つ:フィンテックとデジタル資産の次の波
概要	現地記者向けに、 現地Fintech/Web3等の企業の日本参入を促進するテーマでパネルディスカッションを開催 記者と登壇者、その他関係者との個別インタビューの機会を提供
日時・場所	11月13日（木） 11-12時・ Singapore Fintech Festival会場 Japan pavilion内
アジェンダ	11:00-11:05 オープニングスピーチ（FCT森田専務） 11:05-11:40 パネルディスカッション ①日本・東京における事業拡大の機会 ②日本・東京におけるWeb3.0成長の現実 ③日本の金融規制の見通しと将来の可能性 11:40-12:00 Q&A
登壇者	Decima Fund 共同創業者 松澤 翔太氏 Banking Circle社 Natalie Shiori Fleming氏 金融庁 杉野 隆弥氏 モデレーター FCT 竹腰

Media Eventの成果

- 7媒体がイベントに参加し、内2媒体([The Asian Banker](#), [Asian Banking & Finance](#))から森田専務への個別インタビューを獲得(下表参照)
- 15件(記事14件、動画レポート1件)のメディア露出を獲得(次頁参照)



Tokyo opens a new frontier for fintech and Web3 collaboration



The Asian Banker 11/18(木)掲載

<https://www.theasianbanker.com/updates-and-articles/tokyo-opens-a-new-frontier-for-fintech-and-web3-collaboration>

当日参加した媒体(計7社)

太字: 個別インタビュー実施媒体

	媒体名
1	The Asian Banker
2	Asian Banking & Finance
3	The Straits Times
4	New Straits Times
5	Business News
6	Berita Harian
7	The Sun Biz

Media Eventの成果 –報道された記事(含む動画レポート)一覧 (計15件)–

	媒体名	タイトル(掲載日)
1	Business Times, New Straits Times	“Tokyo strengthens global ties at fintech festival” (October 29 2025)
2	KLSE Screener	“Tokyo strengthens global ties at fintech festival” (October 29 2025)
3	finews.asia	“Tokyo Builds Momentum in Fintech Expansion” (October 30 2025)
4	Focus Malaysia	“Tokyo strengthens market entry support for Malaysian, ASEAN fintech innovators”(October 30 2025)
5	Retail News Asia	“Tokyo: The New Fintech Frontier Poised for \$30.2 Billion Boom by 2033” (October 31 2025)
6	The FinTech Times	“FinCity.Tokyo Intensifies Global Outreach to Scale Fintech in Japan” (November 3 2025)
7	finews.asia	“Tokyo Stakes Claim in Next-Generation Finance” (November 14 2025)
8	Business Times, New Straits Times	“From banks to blockchains: Tokyo’s reinvention drive”” (November 14 2025)
9	The Sun Biz	“Tokyo positions itself as Asia’s next fintech launchpad at SFF 2025” (November 14 2025)
10	Berita Harian Online	“Tokyo loses its old image, is now a global fintech gateway” (November 14 2025)
11	Business News Malaysia	“Tokyo Emerges as Global Fintech Gateway at Singapore FinTech Festival 2025” (November 14 2025)
12	Retail News Asia	“Tokyo Emerges as Global Fintech Powerhouse: Insights from Singapore FinTech Festival 2025” (Nov 15 2025)
13	Focus Malaysia	“Unlocking FinCity.Tokyo: Why are global fintechs looking east?” (November 17 2025)
14	The Asian Banker	“Tokyo opens a new frontier for fintech and Web3 collaboration” (November 18 2025)
15	Asian Banking& Finance	“Tokyo positions fintech startups for global expansion” (November 27 2025) ※動画レポート

現地誘致候補企業との個別面会 -11/10、14 計6社-

- 東京進出に関心を示した企業に対し、個別面会を実施(含む既に誘致事業で支援している企業)
- 東京進出に向けた意欲の確度、進捗状況、現在の課題、求めている支援内容等の確認を行った。

以下、詳細

①F社(資産運用)

シンガポール拠点のヘッジファンド運用会社。2026年内に日本法人設立に意欲。誘致事業を案内。

②A社(資産運用)

英国系運用会社のAPAC本部と面談。以前からコンタクトをしていたが、東京進出計画を正式に確認。

③L社(資産運用・Fintech)

ファンド事務管理会社。既に誘致事業で支援中。日本法人設立に向け採用状況等を確認。日本での知名度向上のために、FinCity Global Forumでの進出企業ピッチにて登壇機会を提供することとなった。

④D社(Fintech)

Singapore Fintech Festivalで面談。東京進出を具体的に検討し始めたと聞き、その後コンタクトを継続。

シンガポールロードショー（11/10-14）総括・成果①

- **イベント主催によるメディア露出:15媒体**(内14件記事掲載、1媒体動画レポート)
- **地元ステークホルダーとの関係構築**:MAS, IMAS, 駐シンガポール日本大使館
- **会員企業のシンガポール拠点との関係構築**:DBS
- **今後の海外ロードショーへのつなぎ**:ADIA,IMAS

誘致(Attraction U)事業

事項	成果
面談・インタラクション数	47件
東京進出意思決定	3社
Attraction U申込み	2社

iConnections Global Alts Asiaへの参加について

- **海外GPのAPAC担当者に多く会える**点は魅力的。(ただし、GPは、オルタナ投資でもHFが多い印象、誘致で名前を耳にするような比較的メジャーなPEファンドは少なかった)
- **日本の新興運用業者(EM)への資金拠出に関心を持つファミリーオフィスやFoF等のLPとの新たな接点構築**ができた。
- EM ShowcaseでFCTが紹介しているEMが現地でブース出展しており、情報連携を行った。
- 登壇頂ける日本のLP投資家探しに毎回苦労する。今後も**説得力を持って東京市場をプロモーションするために、FCTの海外イベント登壇に協力頂けるLP投資家との繋がり作りは欠かせない。**
- 今回は**ニッセイアセットマネジメントの大西様**に登壇頂いた。**女性パネリストは主催者からも有り難がられ、女性参加者を対象としたラウンドテーブルにスピーカーとして招かれる等、日本の有力なLP投資家として随所で発言頂けた。**
- また、長年日本の株主アクティビズムに関与し、2024年に日本株に特化したChronus Capitalを共同設立したPhilip Partnow氏に参加頂けたことも、**「日本人が集まって日本を称賛する」絵を回避**する上で良かった。

シンガポールロードショー (11/10-14) 総括・成果②

ーメディアイベントの開催、地元ステークホルダー等との関係構築ー

現地メディア向けイベントの開催について

- 今回15件のメディア露出を獲得できた要因は、**記者に訴求するプレスリリースを実施できたこと、SFF会場(Japan Pavilion)内で記者が聞きたい内容を発信**できたことが大きかった。

(プレスには、イベントの内容紹介に加え、フィンテック企業への日本の規制当局の後押し等マクロ的な視点を記載。SFF会場内で実施したことで、SFFネタを探している記者に訴求。

イベント形式も、SFF会場内でのオープンな形式で開催したことで、当日飛び入り参加者も)

- Japan Pavilionを仕切っていたフィンテック協会もFCTとの今後の連携に前向き。
- 今後、シンガポールが強みとし、先見的な取組みも目立つWeb3/DeFi関連をさらに深掘りできないだろうか？(MAS, Singapore Fintech Association, 金融庁、日本の同分野業界団体、両国企業とともに)

現地ステークホルダー等との関係構築について

- **シンガポールの資産運用業界団体「IMAS」はFCTとの連携に前向き。**

(それぞれのカンファレンスにオンラインで参加しあう、来年度シンガポールロードショーでIMASメンバー向けにイベントを共催する等、主にイベントでの連携に前向きな返答を得た。)

- MASとの面談には森田専務の人脈が大変助けられた。
- **現地日本大使館**は環境金融に関心が高く情報収集にも熱心な印象(財務省以外に環境省出向者も在席)。**環境金融関連ではMAS含めて今後連携できるのではないか。**

- 今回iConnectionsと重複していたため参加できなかったが、同日程でiConnections会場のすぐ隣りで**GFTN Insights (フィンテックのソートリーダーシップ会議)**が行われていた。今後GFTN(SFF主催者(前MAS Chief Fintech Officerが代表)との連携も考えられるのではないか。

ドバイ・アブダビロードショー①(12/9-12)

	9 Tue	10 Wed	11 Thurs	12 Fri
	Abu Dhabi Financial Week		Dubai	
AM	アブダビ着	11:00 現地金融機関(誘致)	アブダビ→ドバイ 11:00 現地金融機関(誘致)	11:00-12:00 Arab News取材対応 12:45-13:00 ドバイ総領事館
PM	13:30 ADIO面会(Abu Dhabi Investment Office)	14:00 ADGM面会 (Abu Dhabi Global Market)	13:30 Bloomberg 訪問 15:00 DIFC (Dubai International Financial Centre)	13:30-14:00 現地日系金融機関訪問

実施事項

1 [Abu Dhabi Finance Week](#)への参加

主催: Abu Dhabi Global Market(ADGM)

概要: 中東地域最大の金融イベント。60以上のイベントや分科会が開催され、100カ国以上から2万人以上の金融関係者が参加。
2025年のテーマは「Engineering the Capital Network」であり、[人口知能と量子テクノロジーの活用などにフォーカス](#)

2 ADIOやDIFCなど関係機関および誘致候補企業などへの個社訪問の実施

ドバイ・アブダビロードショー②(1/13~1/14)

1/13 Tue	1/14 Wed
PM 個別面会:DIFC、 現地日系法律事務所	Japan-Gulf Business & Investment Forum 2026 (主催JPXグループ、JETRO)

実施事項

- ・上記イベントに参加し、来年度の中東ロードショー連携候補先とのネットワーキング、現地企業への情報収集を実施
- ・DIFCなど現地当局等との個別面会を実施し、MoU締結や2月UAE来日デリゲーションへの支援等について調整

イベント概要

協賛:みずほフィナンシャル・グループ、野村證券、大和証券、三井住友トラスト AM、その他
後援:在ドバイ日本国総領事館、金融庁、経済産業省、DIFC、その他
参加者:機関投資家、金融機関、VC、スタートアップ、政府関係者、メディア等(100名程度)



DIFC CEOによる挨拶

主なプログラム

- | | |
|------------|--------------------|
| 基調講演 | DIFC CEO、金融庁、経産省 |
| 講演 | JPX執行役 吉田正紀 |
| 投資家パネル① | みずほ証券、日本銀行 |
| 投資家パネル② | 野村証券、BlackRock等 |
| インダストリーパネル | JETRO、MUFG、Chitose |
| 閉会挨拶 | JETROドバイ事務所長 |

1. アブダビとドバイの関係性

国際金融センターとしての共通点はあるが、連携よりも競争を強く意識する関係

- ・両都市ともに中東の金融ハブとしてのプレゼンス向上に注力
- ・役割分担よりも「どちらが主導権を握るか」という競争意識が全面に出ている。

2. MoUについて

両者ともFCTとのMoU締結には前向き

- ・ADGM(Abu Dhabi Global Market):形式的な協力表明ではなく、個別・具体のアクションを重要視
- ・DIFC(Dubai International Financial Centre):対外的な見え方・メッセージ性を重視し、象徴性のあるMoUを志向。

5月DIFCイベント「[Dubai Future Finance Week](#)」での締結等を視野に検討

➡先方都合により2月DIFC来日は中止、また現地情勢不安のため、FCT側も5月ドバイ渡航は見送ることとなった。

3. 現地日本機関の状況

中東向け金融プロモーションを強化したいニーズは明確

- ・ドバイ総領事館など金融プロモーションへの意識はあるが、人的・時間的リソース制約により、十分な展開が難しい状況。
- ・JPX主催「Japan-Gulf Business & Investment Forum 2026」は、現地の金融関係者との関係を構築する上で重要。

➡来年度はFCTも関与し、「点」ではなく「継続的な日本の存在感」を示す仕組みづくりに貢献する。

ロンドン・パリ・ルクセンブルクロードショー（2/9-13）

2/8 Sun	2/9 Mon	2/10 Tue	2/11 Wed	2/12 Thurs	2/13 Fri	2/14 Sat
Luxembourg/London		London			Paris	
到着	【ロンドン】 ・個社訪問等 【ルクセンブルク】 9:00-10:00 Luxembourg for Finance訪問 11:30-12:30 Luxembourg House of Financial訪問 Technology 14:00-ルクス取引所 15:30-ルクス財務省	・個社訪問 ・会場下見 等	10:00- メディア取材 12:00- 日本証券サミット 内ラウンドテーブル 13:00-18:00 日本証券サミット 中曽会長基調講演 13:50～(15分)	9:00-11:00 第3回UK-Japan TF Dialogue 10:00-12:00 大使館ラウンドテーブル @在英日本大使館 13:00-14:00 Transition Finance Council面会 13:00-16:30 FCTサイドイベント開催	・10:00-11:00 Paris Europlace ・12:00-12:45 現地金融機関訪問 ・15:00-16:00 現地資産運用会社 訪問	帰国

1 日本証券サミットプログラムへの参加

中曽 宏FCT会長による日本証券サミットへの登壇およびCity of London関係者との面会・意見交換

2 サイドイベント等の主催

証券サミットとのサイドイベントとしてラウンドテーブルの実施
第3回UK-Japanトランジションファイナンス懇談会の開催

3 ルクセンブルクやパリなど大陸で関係する機関との関係構築・深化＋誘致候補企業との面会

City of London(英)やLuxembourg for Finance(盧)、Paris Europlace(仏)等の関係機関と今後の連携について具体的な議論を実施。また、STJ Advisors等連携・誘致が有望な資産運用会社との面会

Luxembourg for Finance(LFF)

日 時:2026年月2月9日(月)9:00-10:00

面会先:Tom Theobald(CEO)

Chris Hollifield(COO)

概要:LFFはルクセンブルクの金融プロモーション組織。ルクセンブルクは資産運用分野における世界有数の金融センターであり、官民連携による投資ファンド拠点としての実績と国際資金を呼び込むための政策運営に強みを持つ。FCTとの関係では、2023年ロードショーでの訪問や、ルクセンブルク財務大臣の来日イベント等への招待を通じて、在日ルクス大使やルクス貿易投資事務所との関係を個々に構築。今回、これらのつながりを[組織間の連携として整理・共有](#)し、LFFとの[実務的な連携を具体化する](#)ことを目的に訪問。

詳細:

- MoU記載内容は両者で合意。内容は、フランクフルト、パリと同様に、相互の協力連携を大枠とした。締結は、4月27日(月) SusHiTechTokyoで実施予定。調印式後、パネルディスカッションの二部構成を提案。先方の関心事項は、[トランジションファイナンス、デジタル通貨\(クリプト、CBDC、ステーブルコイン\)](#)など。
- 登壇候補として、[FCT誘致企業\(EURAZEO\)](#)やLFF、在日ルクス大使館関係者等が具体的なアイディアとして議論にあがった。
- MoU締結後の展開として、国内では[10月Japan Weeks](#)、[2月FinCity Global Forum](#)での訪日連携に強い希望があった。国外では[11月Paris Infra Week](#)でのFCTロードショーに関心があり、連携したいとの意向があった。

今後:

- MoUの文章を確定し、署名に向けた事務手続きを進める。
- 締結後のパネルディスカッションについて具体的な内容及び登壇者調整を開始する。
- 両団体の年間計画を共有し、継続的な連携の機会を検討する。



Lux Stock Exchange & Ministry of Finance of Lux

日時:2026年月2月9日(月)14:00-15:00, 15:30-16:30

面会先:(LuxSE)Rosa Scappatura (Head of Sales & Relationship Management),
Theo Xiaotian (Regional Officer Asia Pacific)ほか4名
(MOF) Gillet Roth(Ministry of Finance)以下6名

ルクス証券取引所 概要:

国際的な債券・サステナブル金融分野に
強みを持つ欧州有数の専門特化型取引所。
特に、グリーンボンド等サステナ関連商品の
上場・情報開示において先進的



詳細:

- 東京の取組紹介としてトランジションファイナンスの国際展開を説明。強い関心が示された。
- FCTから日本証券サミットに登壇する旨を説明
→ロンドン渡航予定の2名から、同イベントやFCTイベントへの参加希望あった。
- ロードショー年間計画を説明
→**継続的な交流・連携意欲**が示された。

今後:

- トランジションファイナンスへの関心が高いことを踏まえ、ロンドンでの活動紹介、イベント参加、同分野に関する政策・市場動向の情報共有を進める。
- Japan Weeks**や**FGF**など**訪日機会での連携**を狙う。

ルクス財務省 概要:

ルクス財務省SDGs推進部門と面会
冒頭、財務大臣の出迎えも受けた。



詳細:

- 財務省におけるSDGs・サスファイ推進取組について説明を受けた。
- 東京都からレジリエンスボンドの取組を説明後、FCTの活動について説明(EMPや年間プロモーション活動)
- 同省はLFFとも強い連携関係**にあり、FCT-LFFのMoU内容にも高い関心が示された。
→同省として**協力可能事項は対応する**旨発言あり

今後:

- 訪問を契機に政策レベルの意見交換の継続を図る。
- LFFとの連携を充実させるための**政策的パートナー**として継続的なエンゲージを行う。

日本証券サミット登壇

日時:2026年月2月12日(木)13:00-17:35

場所:Mansion House

概要:国際資本市場協会、日本証券業協会、日本取引所グループ(JPX)共催による、大規模な金融イベント。毎年ニューヨークとロンドンの2箇所で交互に開催。

プログラムは別紙のとおり。**中曽会長が基調講演**を実施。

詳細:

- 基調講演では、①ドル体制の動揺下において国際秩序を擁護する東京金融センターの役割、②トランジションファイナンスなど国際共通課題で日英が金融面で発揮できる連携、③EMPなど、FCTの活動から生まれた東京の新しいイニシアティブなどをテーマに講演。
- 講演をきっかけに、「3rd UK-Japan Transition Planning Dialogue」への**参加希望があった(4名)**。
- 会場参加は**約350名**(速報値)。目測で約6割が現地日本企業。片山財務大臣(ビデオ)ほか、**財務省とJPXとの対談**など初めての試みも見られ、盛況だった。
- 海外メディア事業でのラウンドテーブルの変形実施としてジャーナリストへのコンタクトをまとめて実施。以下**6名のジャーナリスト**が現地で講演を聴講。そのうち**2名から追加取材**があり、**記事化**へ。
 - Deborah Ritchie, Contributor, Global Finance
 - **Khalid Azizuddin, Senior Reporter, Responsible Investor**
 - Matthew Davies, Editor, International Financing Review
 - **Tessa Walsh, ESG Editor, International Financing Review**
 - Jonathan Boyd, Editor, Funds Europe
 - Michael Hurley, Deputy Editor, Environmental Finance



3rd UK-Japan Transition Plan Dialogue

日 時:2026年月2月12日(木)9:00-10:30

参加者: (日)中曽宏(FCT代表理事)、高田英樹(GX推進機構 理事)、ローラン・デュプス(IBA事務局長)ほか
(英)Vanessa Williams(Transition Finance Council)、Mao Zhouchen(theCITYUK APAC head)、
Jacques Morris(Head of ITPN)ほか [計31名参加\(ハイブリッド\)](#)

概要:2025年7月に実施したTransition Finance Forumを契機に、FCTは、
日英の脱炭素化を推進する[実務者間のコミュニケーションチャンネル](#)として両国の取組の
共有や連携充実のための懇談を定期的実施。第1回2025年8月、第2回同年12月に
続き、金融関係者がロンドンに集まる証券サミットの機会をとらえて第3回目を実施した。



詳細:

- 冒頭、中曽FCT代表理事からFCT活動の説明と日英連携による地域的な脱炭素化促進への期待を述べた。
- 日本サイドからはGX推進機構高田氏より、2026年4月開始予定のGX-ETS市場の説明など、日本の脱炭素化政策の動向について説明。
- 英国サイドからはFCAから、SSB基準による開示義務との関係を踏まえ、上場企業の脱炭素化行動を促進する施策について説明があった。
- あわせて、6月LCAWに[Transition Finance ForumをFCTおよびCoL/CityUKで共催](#)する方向で進めること、本懇談会メンバーがトランジションファイナンスのプロモーションに協力することを大筋合意した。

今後:

LCAWの主催者である[E3G\(2025年2月訪問済\)](#)と連携を開始し、具体的なイベントのアジェンダ形成を開始。

“Japan as an Asset Management Nation”:2 years on

日 時:2026年月2月12日(木)13:00-16:30

登壇者: 三好敏之(金融庁 金融国際審議官)、吉田正紀(JPX 常務執行役)、後藤幸博(Nomura Fiduciary ロンドンオフィス代表)、Zachi Schor(INNO Found CIO)、表大祐(渥美坂井ロンドン)、原山真紀/Tara Reaside(J Eurus IR)ほか 英国の運用業界関係者等計35名参加

概要:「Japan as an Asset Management Nation : 2 years on」をテーマにラウンドテーブルを開催。金融庁、JPX、資産運用会社、法律事務所、IRアドバイザー等が登壇し、日本の資産運用立国政策の進展と、日本市場への投資機会・制度改革について議論。

詳細:

- 三好審議官より「資産運用立国」政策開始から2年間の進捗について説明があり、新NISA及びiDeco制度の拡充を背景に、家計資金の「貯蓄から投資」へのシフトが着実に進展していること、市場参入環境の整備や英語IR強化等の改革が進んでいることが共有された。
 - 日本中小型株への投資を実際に手掛けるイスラエルの投資家から内需型企業の構造改革やDXの進展、PE資金の日本市場へのシフト加速等の投資仮説の紹介を行った。
 - 海外投資家の視点として、円安水準を踏まえた通貨エクスポージャーの機会、アクティブ戦略への需要、中国集中リスク分散先として位置づける動きが紹介された。
 - 英国・EU系ファンドの日本市場参入に関し、金融商品取引法(FIEA)上のType1/Type2ライセンス、第63条特例、IAAモデル等の実務的選択肢について説明があり、質疑応答では「勧誘」の解釈や年金アクセスに関する具体的論点が議論された。
 - FCTより市場参入支援策、補助金制度、ネットワーキング機会等の事業内容を紹介し、海外資産運用者の日本進出を後押しする枠組みについて説明を行った。
- ➡政策・企業改革・海外資金の動きが重なり、日本市場は再評価局面にあるとの認識が共有され、好評を得た。



Transition Finance Council

日時 : 2026年月2月12日(木)13:00-14:00

面会先:Alok Sharma (Chairman/英上院議員)、Vanessa Williams(Council Member and Working Group Leader)、Ronald Bohlander(UK Embassy, Economic and Financial Counsellor)

概要:両氏はTransition Finance Councilの主要メンバー。2025年7月にTransition Finance Forumに登壇。今回の面談では、2026年における連携方針について意見交換を行った。あわせて、中曽会長よりPathfinder Initiativeへの説明をいただいた。また午前中に実施したダイアログの内容もAlok氏に共有した。

詳細:

- FCTの取り組みについて中曽会長及び事務局から説明。
- VCM Pathfinder InitiativeについてCoLサイドから[アドバイザー](#)の紹介を受けられないか打診。
→現在、[Department of Energy Security and Net Zero](#)の人物との連携を模索中。
- 6月LCAWでのイベント共催についても議論し、Alok氏から前向きな反応を得た。
- [2026年3月東京開催予定の金融当局ダイアログ](#)へのFCTの参画についても提案があった。

今後:

- 6月の連携をマイルストーンにし、Pathfinder Initiativeとロンドン関係者との調整を進める。
- 在日英国大使館が開催するイベント(金融当局ダイアログ等)の参加を通じ、ネットワーキング強化を図る。
- TSFWやTMG-CoLセミナーなど国内関係イベントへの連携についても検討を進める。

Paris Europlace

日時:2026年2月13日(金)10:00-11:00

面会先:Olivier Vigna (CEO), Cécile Goubet(Directrice générale à l'Institut de la finance durable), Nadine Huynh(Director international Development)



概要:Paris Europlaceはパリ金融プロモーション組織。FCTとは2019年にMoUを締結。FCTは2024年12月のWAIFC脱退を機に、**個別MoU活性化へ組織方針を転換**。2025年10月フランス大使館でOlivier氏と面談。10月8日Paris Europlace Forum延期(中曽会長登壇)を受け、今後の連携について継続的なコミュニケーションを取ることで合意。その一環として、2月FGFではBank de Franceの登壇者を調整いただいた。今回のロードショーでは、FCTの年間計画を共有し、次年度における具体的な連携の可能性を議論。

詳細:

- Paris Europlaceの旗艦イベントである**Paris Finance Forum(6月開催)**が規模が大きく、テーマ設定の幅も広いため、連携対象として適しているとの提案あり。⇒**FCTのスケジュールと合わず断念**
- Paris Infra Week(11月)**はよりテーマを特定した議論が中心となる。**共催イベント開催の方向で合意**。テーマとして、デジタル通貨、AI、サイバーセキュリティ、サステナブル(レジリエンス含む)、宇宙、データセンター等の提示あり。
- ガロー仏銀総裁が6月頃辞任予定、**新総裁が10月頃訪日**し、Paris Europlace Forum in Tokyoを実施予定。会長の登壇/ファイアサイドチャットなどの提案あり。FCTからは、Japan Weeks開催時期であるため、TSFFとの連携を提案。⇒大筋で合意。
- Paris Europlaceは**欧州プロモーション組織(ドイツ、UK、イタリア等)**と**年1回の総会**を開催しているとのこと。FCTの関与も歓迎する旨発言あり。総会では、欧州における金融エコシステムにおける主要人物(規制当局、大手金融機関等)との個別ダイアログも実施。

今後:Paris Infra Week等を見据え、テーマの検討(インフラ／デジタル分野中心)。また、10月大使館イベントおよびTSFFの機会に、Paris Europlaceとの共同登壇・対話の場を設定

NewAlpha Asset Management & EURAZEO

日時:2026年月2月13日(金)12:00-12:45, 15:00-16:00
面会先:New Alpha:Philippe Paquet (Managing Partner)
EURAZEO:Déborah Loye (Director)

概要:NewAlpha Asset ManagementはParis EuroplaceとEmergence (現地のEMPファンド)プログラムで連携しているファンド。



詳細:

- 日本EMPへの参画に関心があるということで訪問。Paris Europlace Olivier氏からも、NewAlpha AssetがParis Europlace [EM支援事業の1社](#)として紹介された。
- 日本のEMPプログラムの進展やかんぽ生命など日本のアセットオーナーの実施するEMPファンドの進展について質問を受け、説明した。
→[EM支援をビジネスとして実施。日本での同様のビジネスモデル構築に意欲](#)

今後:

- TAMF等日本のEMとマッチングできる機会を案内。
- EMファンド参画の可能性を探りつつ、会員誘致にもつなげていく。

概要:EURAZEOはパリに本店があるPEなどオルタナ投資を中心に行う資産運用会社。過去にFCTの誘致活動を通じて日本に資産運用拠点を設立。



詳細:

- 先方から、日本のスタートアップ支援及び実績の説明を受けた。
- パリを中心としたスタートアップ関係イベントの登壇実績についても紹介があった。
- FCTが企画しているパリでのプロモーション活動の企画を説明したところ、今後の[登壇者選定に協力したい](#)との協力意向が示された。

今後:

- 11月パリロードショーでの連携を継続協議する。
- EURAZEO日本法人との関係強化を図りつつ、プロモーション活動での協力と通じて、会員誘致にもつなげる。

ロンドン・パリ・ルクセンブルクロードショー（2/9-13）まとめ

【ロンドン】

- 日本証券サミットでの中曽会長登壇では、[6名の現地ジャーナリストが聴講し、2件の追加取材及び記事掲載へ](#)つながった。また翌日開催のFCTサイドイベント(TF Dialogue)へ[参加希望\(4名\)](#)を受ける反響を得た。
- TF Dialogueでは[31人が参加\(会場14名\)](#)。日英の取組状況のupdateを実施したほか、6月London Climate Action Week(LCAW)での[FCTとCoL/CityUKとのイベント共催](#)について議論。
- 続くAlok Shama(英・上院議員/Transition Finance Council Chair)と中曽会長の対談では、[VCMプロジェクトへの参画を提起](#)した。
- 日本株・日本の資産運用市場をテーマにしたラウンドテーブルでは、[現地資産運用関係者25人](#)が参加。三好金融国際審議官に資産運用立国政策の変遷について講演いただいた他、日本の資産運用ビジネスの最新動向、金商法業登録、「Attraction Uプログラム」について説明し、関心を得た。
- 個社面談では、[STJ Advisors社](#)から[FCTへの会員参画について希望表明](#)を得た。
- 誘致事業に関して、かねて東京進出に関心を示していた[Advent International社](#)から、東京に拠点開設を進めていることを確認（[2025年2月法人登記](#)）。

【パリ】

- Paris Europlaceに11月[Paris Infra Weekでのイベント共催](#)を打診し、好感触を得た。

【ルクセンブルク】

- Luxembourg for Financeと4月SusHiTechTokyoにてFCTとの[MoU締結及び次年度ロードショーでの連携](#)について合意を得た。

Next Actions

【ロンドン】

TF Dialogueについて

- ・2026年6月LCAWでのイベント共催(CoL・theCityUK)を見据え調整。
- ・G20(2027年イギリス議長)を視野に日英の金融連携を発展させるべきという意見があった。
- ➡2027年ロンドンロードショーの中心的なプロモーション事項として、戦略的に取り組むべきか？

theCityUKについて

- ・theCityUKは今年9月及び2月FGF時期の訪日に関心あり。経済的安全保障の観点から日英金融センターの連携を議論したいという関心を聴取。
- ➡高市政権の戦略投資分野などの政策とも共通する観点があるため、資産運用でのテーマ設定が可能か

英大使館からの提案について

- ・毎年3月頃日英でローテーションしている金融当局者ダイアログへ、FCTの参加・連携の提案があった。
- ➡議論した内容を政策提言に結びつけることも視野にいれつつ、エンゲージを継続する

【パリ】

- ・11月Paris Infra Week: 経済安全保障やGXの観点からインフラ強化をテーマに現地金融機関と連携を模索
- ➡加えて国内でのイベント(10月TSFFとParis Europlace Forum in Tokyo)での連携も検討

【ルクセンブルク】

- ・10月FCTイベント(TSFF)や2月FGFなどでの連携を検討。
- ➡ルクスに多い生命保険会社等に対してEMPを紹介するような企画を模索。またLuxSEは日本のグリーンファイナンスに関心があり、トランジションファイナンス関連の議論も有益

マイアミロードショー（2/23-26）概要

2/22	2/23 Mon	2/24 Tue	2/25 Wed	2/26 Thu	2/27
到着	iConnections Global Alts Miami 2026 @Miami Beach Convention Center				帰国
	10:00-11:00 資産運用会社訪問	● Japan session 9:30-10:00 海外AO, AMに対してFCTのプロモーションを行うと同時に、日本の金融市場のモメンタムを発信 17:30-18:30 Vertical Aerospace VIP Cocktails 18:30-19:30 AM企業訪問	● ブース出展 終日 誘致対象先AM、海外AOとの接点構築、質疑応答を介した課題・ニーズ収集 ● ミーティング 随時 アロケーター、マネージャー、サービスプロバイダー等との日本進出や日本への投資についてミーティングを実施		
	14:00-15:00 投資運用会社訪問		● The private breakout session 14:30-15:30 招待制ラウンドテーブル、投資先としての日本(インバウンド)の魅力の発信、ディスカッション		
	18:30-20:30 Evening Reception		20:00-22:00 不動産投資会社訪問		

iConnections Global Alts Miami 2026 @Miami Beach Convention Center

- オルタナティブ投資業界向け世界最大級のキャップイントロイメント(2026年は約6,000人が参加)
- 属性は、ファミリーオフィス、ファンドオブファンズ、政府系ファンド、年金基金、財団など

実施事項：①iConnections Global Alts Miami 2026への参加、ブース出展、参加企業とのミーティング、
②“Japan Session”の実施、③“The private breakout session”の実施、④誘致対象企業への個社訪問

Japan Session “The New Japan Playbook: From Fundraising to Footprint in Tokyo”

1. セッション内容

- JPX 山下氏
- 企業に資本コストと株価を意識させ、持続的な成長を追求するよう促す「Value Up Program」の紹介、2026年を「アルファ(超過収益)の年」と予想。
- 2024年に開始された新NISAによって若い世代の個人投資家の資本市場への参入が促進、Value Up プログラムに関連したユニークなETFなど、個人投資家を惹きつける商品の継続提供等を紹介。
- 企業年金基金 木口氏
- 年金基金の特徴として 1,000社以上の中小企業をスポンサーとする確定給付年金(DBプラン)であり、一般的な日本年金とは異なり、比較的高いリスクでより高いリターンを追求する非常に積極的な投資姿勢を持つ。
- 機関投資家の変化として、日本の機関投資家は、インフレと政府のアセットオーナー・プリンシプルの方針により、徐々に保守的な姿勢から脱却し、「より洗練され、合理的なリスクでより高いリターンを追求」する方向へ変化している。この変化は、海外の金融機関にとって日本の投資家市場に参入する大きな機会となっていることを説明。

2. 総括

- 朝一番のプログラムだったが、会場はほぼ満席(150名収容)となり、昨年度からさらに日本に対する注目度は上がってきていると感じられた。
- インフレと政府方針を背景に日本の機関投資家と個人投資家の投資姿勢が積極化していることを明確に発信でき、日本市場のアルファ獲得の機会を強調・発信することができた。
- NYの天候悪化に伴い、登壇予定の前さんが不参加となったため、若干迫力に欠けるパネルとなったが、2名の登壇者はより詳細な内容の講演を行うことができた。



The private breakout session "Japan Insider" Roundtable, Sponsored by FinCity.Tokyo

1. ラウンドテーブル内容

- 三井住友トラスト・アセットマネジメント David Semaya氏
- 日本の企業統治は過去7年間で根本的に変わり、円安や外部からの関心急増、アクティビストの増加が見られ、日本には今後5〜7年間の、良好な投資機会があると予測。
- 海外マネージャーが日本市場で資金調達する場合、関係構築には時間がかかるが、その関係は他の地域に比べて長期的に持続する傾向がある。
- 企業統治の変化の結果、要求に対応したくない同族経営などの古い企業が上場廃止し、PEファームや銀行による非公開化が増加、これにより市場の選択肢が増え、日本の起業家も増えている。
- JPX 山下氏
- 投資家からのフィードバックでは「実質的な要素の欠如」が指摘され、既に形式的な要件は満たされているため、より有能な取締役会メンバーが求められていること、過去5年間の「表面的な変化」から、今は「実質的な変化」が要求されている。
- アルファ(超過収益)発見の最良の方法は、開示を確認し、企業と対話(エンゲージメント)すること、日本企業は米国投資家を受け入れ、米国投資家も理解を深めて建設的なフィードバックを提供している。
- 住友三井信託銀行 前氏
- 日本の機関投資家は保守的で、企業年金の目標利回りは2%と低く、主に固定収益資産に割り当てられている、対米ドルでの為替ヘッジコストが5%であるため、年金は現在、より高いリターンの商品を探している。
- 外部マネージャーの選定において、東京オフィスは大きな利点です。ゲートキーパーが現地サポートを得られるため、投資家にとっても容易であり、東京オフィスを持たないマネージャーの最善策は、現地のネイティブ言語サポートを用意すること。

2. 総括

- 招待制のため、iConnectionsのプラットフォーム上及び会場での声掛けを積極的に行い、およそその席を埋めることができた(最大20名程度)。
- 企業統治改革による日本市場の構造的な変化、円安と海外からの関心の高まり、機関投資家の変化等、日本における投資機会と主要な課題について議論し、日本への深い理解を促す機会を提供できた。
- 活発な質疑応答もあり、盛況なラウンドテーブルが開催できた。



【iConnections Global Alts Miami 2026への参加、ブース出展】

- 会期3日間のうち、初日はStageでのパネルセッションが多く開催。参加者の注目を集めていたテーマはAI、デジタル資産(ビットコイン等)、プライベートクレジットとディスロケーションなど。AI関連のパネルはほぼ満席に。2日目以降は個別商談がメイン、そのほか招待制のラウンドテーブル等のイベントが開催された。
- FCTからは、後述のセッションやブース出展、個別ミーティングなどを通じ、Global Alts Miamiに参加する先進的・特徴的なGPに対し、日本市場の魅力を発信。東京に拠点を設けることで日本でのファンドレイジングが円滑に進むことを周知し、拠点誘致を図った。

【Japan Session “The New Japan Playbook: From Fundraising to Footprint in Tokyo”】

- JPX 山下様、全国ビジネス企業年金基金 木口様より、日本の機関投資家がアセットオーナープリンシプルなどを背景にオルタナティブ投資の比率を大きく上げていること、そうした機関投資家の動きを背景に日本のオルタナ市場も資金流入が見込まれ、活性化していることを発信。Global Alts に参加するGPにとって、日本に進出することがチャンスである点を強調。
- 朝一番のプログラムであったにもかかわらず、100～120名程度の参加者を集め、日本への関心が高まっていることを実感。
- プログラム終了後は、参加者とFCTメンバーとの活発な名刺交換、意見交換を実施。翌日開催のラウンドテーブルへの参加者獲得(数名)に繋がった。

マイアミロードショー（2/23-26）主な成果(2/2)

【The private breakout session The "Japan Insider" Town Hall】

- 完全招待制のセッション(主にGPなど、**20名程度の参加者**を招待)を実施した。
- FCTアンバサダーDavid Semaya氏からは「日本の企業統治改革、円安やアクティビストの増加などにより、日本には今後5～7年間の、良好な投資機会があるとの予測」が語られ、聴衆を強く惹きつけた。また、JPX 山下氏からは「コーポレートガバナンス改革を通じた日本の事業会社の変容」について、SMTG 前氏からは「外部マネージャーの選定における東京オフィスの利点」などについて説明があった。結果、参加者との熱心な議論、質疑応答につながり、**東京進出を真剣に検討中との発言のあった参加者(GP、3名)にはFCTのAttraction U事業を案内**

【イベント内個社ミーティング、企業訪問】

- iConnectionsイベント内で**25社程度の企業との個社ミーティングが成立(昨年度より増)**。多くの企業が高いコストや文化的な難しさを認識しつつも、日本市場への参入、プレゼンス確立を模索していることを把握。**FCTのAttraction U事業にて、継続的なフォローを実施**
- その他、各社ブースを巡回する形で**のべ80社程度**とのミーティングを実施。
- イベント外においても、日本への進出に関心を示している**資産運用業者等4社を訪問**。その結果、**1社から東京への拠点開設に前向きな回答**を得た。

Next Actions

【Japan Session, The private breakout session】

- セッションの内容に関し、日本のアセットオーナーがどのような戦略をとるかについては、現地でもあまり知られていなかった印象。参加した多くのGPから「今後のビジネス展開に参考になる話だった」との感想あり。
日本のアセットオーナーが現地イベントに登壇することへのニーズの高さを再確認。
→[FGF in NY\(10月\)](#)において、「日本LPのアセットアロケーション戦略」などのテーマ設定を検討

【iConnections Global Alts Miami 2026イベント内個社ミーティング、企業訪問】

- 個社ミーティングを行った[現地LPについて、東京への投資意欲、将来的な投資戦略を把握](#)。
→[FGF in NY\(10月\)](#)への参加案内など、継続的なコンタクトを維持
→ミーティングした企業のうち1社について、FCTの[EMP事業](#)を案内し、海外アセットオーナー・サーバイへの協力を打診予定
- [イベントに参加したGP、現地GPについて、東京進出に向けた意欲の確度、進捗状況、現在の課題、求めている支援内容等を確認](#)。
→FCTの[Attraction U事業](#)に引き継ぎ、要件を満たす企業は同事業のパイプラインに追加し、継続的なフォローを実施

マイアミロードショー(2月) 写真

iConnections Global Alts Miami 2026



Japan Session



Private Breakout Session



個社訪問



kawa capital



Imperial Fund



Alkamy Capital

ニューヨークロードショー（3/9-12）

2026年10月開催予定のFGF in NYに向け、現地投資家等の関心が高いコンテンツ・登壇者像を把握するため、ラウンドテーブルや現地関係者との意見交換を行った。

- 出張者：村井翔太郎、東海林美咲、尾日向育子、山口欣子（誘致事業アドバイザー）
- 実施事項は以下の通り

 :個別Mtg :FCT主催セッション :会場候補視察

3/8 Sun	9 Mon	10 Tue	11 Wed	12 Thr	13 Fri
現地到着	東京証券取引所	在ニューヨーク 日本国総領事館	Doris Duke Foundation		NY発
	日本銀行	誘致候補先	Sumitomo Mitsui Trust Bank	日本生命	
	DBJ Americas	ASG	Convene (360 Madison)	Urban Future Lab	
	Japan Round Table	Metropolitan Club	JETRO USA	Newlab	
		CFA New York Society			
		Rockefeller Group			

ニューヨーク Key quotes

● 10月 FGF in NY:コンテンツ

- 現地の投資家から関心が高いテーマは、「①マクロ環境(財政・金融政策)②日本のLP投資家が登壇するパネル ③日本のテックスタートアップのポテンシャル(特にフィジカルAI)」
- 「投資対象を絞ったテーマにすることで対象が狭くなり集客もおのずと難しくなる。」
- 「日本のPEに関心は高まっているが、多くが(特に独立系は)既にオーバーサブスクライブで参入できない。VCはサイズが小さすぎてチケットサイズに合わない。米国でのスタートアップ投資でもEXITに苦戦している。」「現実的に投資につながりやすいテーマとして、**上場市場を取り扱うのが良いのではないか**」
- 「**東証の市場改革、CG改革**は関係者には**既に浸透**しており、目新しさはない。世界的に過去10年で多くの日本株ファンドがクローズし、日本株運用者が減ってしまった。半導体関連が牽引する日本株への関心が高まった状態から**実際に資金流入につなげていくためのプロモーション活動は引き続き重要。**」

● 10月 FGF in NY :イベント運営ロジ

- 「10月はAGMが重なる最も多忙な時期。」「特にイベントが多い場合はダブルヘッダーになることもあるため、マンハッタンの中でもミッドタウン(3rd-8thAve.)にあることが重要。」
- 「立地が悪い場所(Japan society等)でも安心して集客できるのは、**GPIF**等が登壇する場合。」
- 「集客のことを考えると協業パートナーはNYでの顔の見えるネットワークを持っていることが重要」「**登壇者も業界内でのネットワークを持っていると集客に協力**していただける」「参加者にも、名のしれた人がいると良い。『あの人に来てるのか』と思わせられる」

Japan Round Table

テーマ	An update on Japan's FY2026 budget, tax system reforms, and Prime Minister Takaichi's economic policies
開催日時	2026年3月9日(月)16時～17時30分
当日の流れ	● 伊藤孝一氏(在ニューヨーク総領事館領事、財務部長 財務省在ニューヨーク主席代理)によるプレゼン ● QAセッション ● ネットワーキング
当日参加者	日本市場に関心を持つ、米国の金融関係者(投資家を含む)約20名が参加
伊藤氏発信内容	● 経済のパラダイムシフト:日本経済は30年間のデフレから「<u>成長志向の経済</u>」へと明確に転換している。 ● 各種指標の好転:名目GDP、株価、CPI、賃金、金利がいずれも歴史的な高水準で推移している ● マインドセットの変化:<u>企業は値上げを躊躇しなくなり</u>、消費税の価格転嫁も政府が積極的に奨励している。
参加者からの質問	当日の質問内容については、主に以下の5つのテーマに集約されていた。 ● 企業収益とインフレ適応力(<u>プライシング・パワー</u>) ● 構造的な人手不足解消に向けた「<u>労働・移民政策</u>」の行方 ● 約2,000兆円の家計金融資産からの成長投資への期待 ● <u>地政学リスク</u>と「<u>経済安全保障・外資規制</u>」への警戒 ● <u>マクロ脆弱性</u>(為替変動とエネルギー価格高騰)への対応力

Japan Round Table:写真



FCT Senior Advisorの
Yoshiko Yamaguchi氏がモデレータ
を務めた。



在ニューヨーク総領事館領事 伊藤孝一氏
によるプレゼン



FCT 東海林が、2026年10月にFGF in NY
開催をアナウンス。10月14日、15日の”Save
the date”を呼びかけ



会場の様子



ロンドンラウンドテーブル(6月)



シンガポールラウンドテーブル(7月)



ロンドン取材対応(2026年2月)

主な成果

●記事掲載獲得数: **38件**

○海外メディアラウンドテーブル

今年度よりプロモーション活動との相乗効果発揮を促進するため、**海外ロードショー**と連携し、現地記者向けにFCTの情報発信を行う**ラウンドテーブル**を実施。

①**シンガポール**(2025年11月)

Singapore FinTech Festival(SFF)を取材する記者の関心領域と合致する切り口を提示できたため、**15件**の記事創出。

②**ロンドン**(2025年7月、2026年2月)

日本証券サミットやFCT主催イベントと連携し、計**6件**の記事創出。

○国内でのラウンドテーブル(2件)および個別の取材対応等も実施

●記事広告: **3媒体**に掲載(延13,366PV数獲得)

①CityAM(ロンドンロードショーと連携)、②Responsible Investor(TSFWと連携)、③FinanceAsia(FGFと連携)

●**FCT理事インタビュー**を作成・掲載し、FCT関係者の知見を活かし**コンテンツ強化**

メディアラウンドテーブル詳細 (1/3)

記者への理解促進、関係構築を目的としたラウンドテーブルを国内外で計5回実施

○第1回:日本外国特派員協会・朝会「Deep Dive」での登壇(5月16日) [アーカイブ動画](#)

- 開催形式(場所):ハイブリッド(日本外国人特派員協会)
- 参加記者数:会場参加17名、オンライン10名※参加媒体名は非公表
- 登壇者:イエスパー・コール氏(FCTアンバサダー)、山寺悟氏(アジア開発銀行顧問)、有友圭一氏(前FCT専務理事)
- テーマ:トランプ政権下の国際金融システムの動揺とアジア国際金融センターの動向



第1回 ラウンドテーブル

○第2回:Financing the Green Transition: Global Challenges and Strategic Solutions(7月2日)

- 開催形式:The Walbrook Club
- 参加記者数:6名
- 登壇者:デービット・セマイヤ氏(FCTアンバサダー)、高田英樹氏(GX推進機構)、ステファニー・マイヤー氏(FTSE Russell)、鳥居夏帆氏(JPXサステナビリティ責任者)、イレム・イェルデレン氏(ロンドン評議員/トランジションファイナンス評議会副議長)
- テーマ:日英の金融センターにおけるサステナブルファイナンス推進の取組
- 記事化件数:3件(以下2件に加え、African Business※前後に個別取材対応実施)



第2回 ラウンドテーブル

番号	参加媒体名	参加記者名	記事化
1	The Banker	Kimberley Long	—
2	Environmental Finance	Michael Hurley	—
3	Carbon Pulse	Sara Stefanini	—
4	Banking Risk and Regulation (Financial Times)	John Crowley	○
5	Sustainable Views (Financial Times)	Elizabeth Meager	○
6	ESG Investor	Chris Hall	—

メディアラウンドテーブル詳細 (2/3)

○第3回:How AI is supercharging finance – current developments and future outlook for stock trading, banking and fintech in Japan(11月5日)

- 開催形式(場所):オンライン(国内から実施)
- 参加記者数:8名
- 登壇者:鳥居夏帆氏(日本取引所グループ)、中久保 菜穂(シェルパ・アンド・カンパニー)、池田蒼(TempestAI株式会社)
- テーマ:日本の金融機関がどのようにAIを活用してビジネスを進化させているか
- 記事化件数:0件

番号	参加媒体名	参加記者名	記事化
1	Global Finance Magazine	John Amari	—
2	Asia Asset Management	Anthony Rowley	—
3	Regulation Asia	Manesh Samtani	—
4	Cryptopolitan	Thisanka Siripala	—
5	Wirtschaftswoche	Martin Fritz	—
6	Handelsblat	Martin Kohling	—
7	AFP	Katie Forster	—
8	J-Stories	Toshi Maeda	—



Online Media Roundtable

November 5, 2025, 17:30-18:30 Japan Time

(16:30-17:30 Singapore, Hong Kong, 8:30-9:30 London, 9:30-10:30 Paris)

How AI is transforming finance in Japan – sustainable finance at the Japan Exchange Group and the startup perspective

AI is becoming an indispensable part of the digitalization of finance. It is transforming financial workflows by boosting efficiency and enabling faster, more detailed analytics.

This roundtable will explore how AI is currently being deployed in finance in Japan and its future outlook, with a particular focus on sustainable finance and the startup perspective.

As speakers, we are honored to invite:

- Ms. Natsuho Torii, Head of Sustainability at the Japan Exchange Group
- Ms. Naho Nakakubo, AI expert and Chief ESG Innovation Officer at Cierpa & Company, which has developed AI tools for the Japan Exchange Group.
- Mr. Ao Ikeda, President and CEO of Tempest AI, a startup focused on AI solutions helping companies with their digital transformation.

Following the discussion, we open the floor to Q&A and further discussion | We look forward to welcoming you to this event.

第3回ラウンドテーブルインビテーション

メディアラウンドテーブル詳細 (3/3)

○ 第4回:Unlocking Tokyo: the next wave in Fintech and DeFi(11月13日)

- 開催場所:シンガポール@Singapore Fintech Festival
- 参加記者数:7名(6媒体)
- 登壇者:杉野隆也氏(金融庁)、松澤翔太氏(Decima Fund)、Natalie Shiori Fleming氏(Banking Circle)、竹腰尚美(FCT/モデレータ)
- テーマ:東京におけるWeb3.0成長の動向と事業拡大の機会等
- 記事化件数:15件(内2件個別インタビュー対応実施)

番号	媒体名	記者名	記事化
1	The Asian Banker	Nanda Lakhwani	—
2	The Asian Banker	Boon Ping	○
3	Asian Banking & Finance	Frances Gagua	○
4	News Straits Times	Diyanna Jali	○
5	Business News	Kazi Mahmood	○
6	Berita Harian	Mahd Alias	—
7	The Sun Biz	John Gilbert	—



ラウンドテーブルの様子④

○ 第5回:第15回日本証券サミット(ロンドン)における登壇(2月11日)

- 開催場所:ロンドン
- 登壇者:中曽 宏 (FCT会長)
- テーマ:国際経済・金融環境の変化と日英の金融センターの連携について
- 記事化件数:3件

ラウンドテーブルの様子⑤
個別インタビュー

No.	媒体名	対応・引用者	発出記事
1	Global Finance	David Semaya氏(FCTアンバサダー)	Price Of Protection: Inside The Global High-Stakes Response To Tariff Turmoil
2	Bloomberg	FCT事務局および井上氏(野村総研)	BOJ May Hike Rates in July Depending on Tariff, JGB Yields
3	Japan Today	FCT事務局および柴田氏(Finolab)	FinTech in Japan: Innovation driven by foreign founders and strategic alliances
4	Banking Risk & Regulation	FCT事務局および高田氏(GX推進機構)	Japan may ease rules if rivals retreat
5	Sustainable Views	David Semaya氏(FCTアンバサダー)	‘When do you pull the trigger?’ Rethinking insurance exposure in a warming world - Sustainable Views
6	African Business	FCT事務局および石川知弘氏(MUFG)	Japan steps up investment in Africa as corporates enter fray
7	Borsen-Zeitung	有友専務理事	Tokio braucht frische Ideen im Finanzplatz-Rennen
8	Nikkei Asia	FCT事務局(村井マネージャー)	Tokyo lends hand to local institutional investors to boost competition
9	Bloomberg	Jesper Koll (FCTアンバサダー)	Japanese Stocks Tipped to Extend Record Rally After Trade Deal
10	Bloomberg	Jesper Koll(FCTアンバサダー)	Japan’s Sleepy 8 trillion bond market wakes up as yields climb

No.	媒体名	対応・引用者	発出記事
11	Ignites Asia	森田専務理事	Japan's asset hub push hits snags
12	Cryptopolitan	FCT事務局および柴田氏(Finolab)	Japan's slow digital currency renaissance
13	Asia Asset Management	森田専務理事	First among Equals?
14	Asian Banker	森田専務理事	Tokyo opens a new frontier for fintech and Web3 collaboration
15	Asian Banking&Finance	森田専務理事	Tokyo positions fintech startups for global expansion
16	日本経済新聞	FCT事務局(竹村マネージャー)	英文IR義務が負担に、プライム上場断念も 発信へ人材育成欠かせず
17	Global Finance	Chang Li氏(FCTアンバサダー)	AI In Finance: The Power Of Agency
18	Arab News (Dubai)	FCT事務局	Fincity.Tokyo eyes investment opportunities in GCC region
19	Nikkei Asia	中曽会長	Family offices eye niche strategies, impact investing in emerging managers
20	Asia Asset Management	中曽会長	From Japan, an innovative approach to asset management

No.	媒体名	対応・引用者	発出記事
21	International Financing Review	中曽会長	Tokyo, London team up on transition finance
22	Global Finance Magazine	中曽会長	Japan Election Supermajority Boosts Market Confidence In Economic Recovery
23	New Straits Times	FCT事務局 (シンガポールロードショー時のプレスリリースを掲載)	Tokyo strengthens global ties at fintech festival
24	KLSE Screener	FCT事務局 (シンガポールロードショー時のプレスリリースを掲載)	Tokyo strengthens global ties at fintech festival
25	Finews Asia	FCT事務局 (シンガポールロードショー時のプレスリリースを掲載)	Tokyo Builds Momentum in Fintech Expansion
26	Focus Malaysia	FCT事務局 (シンガポールロードショー時のプレスリリースを掲載)	Tokyo Strengthens market entry support for Malaysian, ASEAN fintech innovators
27	Retail News Asia	FCT事務局 (シンガポールロードショー時のプレスリリースを掲載)	Tokyo: The New Fintech Frontier Poised for \$30.2 Billion Boom by 2033
28	Fintech Times	FCT事務局 (シンガポールロードショー時のプレスリリースを掲載)	FinCity.Tokyo Intensifies Global Outreach to Scale Fintech in Japan
29	Finews Asia	FCT事務局 (シンガポールロードショー時のプレスリリースを掲載)	Tokyo Stakes Claim in Next-Generation Finance
30	New Straits Times	FCT事務局 (シンガポールロードショー時のプレスリリースを掲載)	From banks to blockchains: Tokyo's reinvention drive

No.	媒体名	対応・引用者	発出記事
31	The Sun	FCT事務局 (シンガポールロードショー時のプレスリリースを掲載)	Tokyo positions itself as Asia's next fintech launchpad at SFF 2025
32	BH Online	FCT事務局 (シンガポールロードショー時のプレスリリースを掲載)	Tokyo loses its old image, is now a global fintech gateway
33	Business News	FCT事務局 (シンガポールロードショー時のプレスリリースを掲載)	Tokyo Emerges as Global Fintech Gateway at Singapore FinTech Festival 2025
34	Retail News Asia	FCT事務局 (シンガポールロードショー時のプレスリリースを掲載)	Tokyo Emerges as Global Fintech Powerhouse: Insights from Singapore FinTech Festival 2025
35	Focus Malaysia	FCT事務局 (シンガポールロードショー時のプレスリリースを掲載)	Unlocking FinCity.Tokyo: Why are global fintechs looking east?
36	Funds Global Asia	FCT事務局 (Frankfurt Main FinanceとのMoU締結に関するプレスリリースを掲載)	Tokyo and Frankfurt deepen financial cooperation with MoU
37	Asian Banker	FCT事務局 (Frankfurt Main FinanceとのMoU締結に関するプレスリリースを掲載)	Tokyo and Frankfurt deepen financial centre cooperation amid climate, technology and geopolitical shifts
38	Wealth Briefing	FCT事務局 (Frankfurt Main FinanceとのMoU締結に関するプレスリリースを掲載)	What's New In Investments, Funds? – Deutsche Bank, DWS, Others

メディアキット及びPR用リーフレットの作成

メディアキット

メディア向けに記事を書いてもらうための情報を集約した資料

Why Tokyo?

- Deep stock and bond markets backed by ultra-secure financial infrastructure
- Huge concentration of banks, financial technology giants, venture capitals and startups
- Finance sector directly connected to Japan's formidable industrial prowess
- Multilingual one-stop business support and easy access to talent across finance and technology
- Flourishing green finance sector, with fast-growing markets for green bonds and ESG/impact investment

TOKYO IN NUMBERS

#3 globally
#1 in Asia



FinCity.Tokyo
The Organization of Global Financial City Tokyo

KEY FINCITY.TOKYO ACTIVITIES

- Investor roadshows**
Roundtables and networking in the US, Europe, Asia and the Middle East
- Annual expert events in Tokyo**
Tokyo Sustainable Finance Forum (October), the latest in green finance, and FinCity.C (January) discusses Japan's asset management
- Attraction U Program**
Business launch support for overseas asset management and fintech firms, including up to JPY30 million, business matching and more
- Emerging Managers Program**
Connecting domestic emerging managers with business matching, seminars and more

ABOUT US

FinCity.Tokyo is a public-private partnership established in 2019 to raise Tokyo's profile as a global financial center. We are sponsored by over 50 member organizations, including major financial institutions and institutional investors.

WHAT WE DO

- Communicate the strengths of Tokyo's finance ecosystem to the world
- Attract talent, funds, information and technology from around the globe
- Support the growth of asset management and fintech in Tokyo
- Make policy recommendations based on engagement with the global financial community

IT'S TIME FOR TOKYO

Tokyo is attracting financial innovators from all over the world. Since the launch of FinCity.Tokyo, we have attracted more than 50 asset management and fintech firms from overseas into our fast-growing ecosystem.



Why? Because we offer a stable political climate, world-class infrastructure and quality of life, and boundless opportunities.

Japan's surge in retail investment means a huge opportunity for asset managers. Legislative reforms have transformed prospects for financial market entrants. Our startup space is booming. Entrepreneurs from overseas have easy access to business support and talent from all fields of finance and technology.

The time for Tokyo is now. Come — join us.

Hiroshi Nakaso, Chairman

A GREAT OPPORTUNITY

JPY2,115 trillion
Or approx. US\$15 trillion in household financial assets in Japan. Over half is in cash deposits, which upcoming legislative changes aim to unlock — a huge opportunity for asset managers.

The Organization of Global Financial City Tokyo
FinGATE KABUTO, 6-5 Nishimbashi-Kabuto-cho, Chuo-ku, Tokyo 103-0026
Japan 103-0026 contact@fincity.tokyo
https://fincity.tokyo/en



PR用リーフレット

ロードショー等で東京市場の魅力、FCTを紹介するための資料

CAPTURE OPPORTUNITY IN TOKYO.

ABOUT FINCITY.TOKYO

FinCity.Tokyo is a public-private partnership global financial center. We are sponsored financial institutions and institutional investors.

- Communicate the strengths of Tokyo's
- Attract talent, funds, information and technology
- Support the growth of asset management
- Make policy recommendations based on

HOW WE CAN HELP YOU

- Entry point to Tokyo's finance ecosystem**
FinCity.Tokyo can advise on all aspects relating to navigating Tokyo's finance ecosystem and make use of assistance provided by the Metropolitan Government, including support programs and business support offices (Business Development Center Tokyo) Access to Tokyo
- Attraction U Program**
Business launch support for overseas asset management and fintech firms, including up to JPY30 million, business matching and more
- Emerging Managers Program**
Connecting domestic emerging managers with business matching, seminars and more

Business Development Center Tokyo
https://www.bdc-tokyo.com/en/

Access to Tokyo (A2T)
https://www.a2t-tokyo.com/en/

IT'S TIME FOR TOKYO.

Discover Tokyo's thriving ecosystem for asset management, fintech, and sustainable finance.

- #3 globally #1 in Asia**
among financial centers (IFC 2024 Financial Centers)
- US\$2,055 trillion**
in nominal GDP, higher than any other city in the world, on a par with Canada (CEOWorld 2024)
- US\$7.1 trillion**
in market capitalization on the Tokyo Stock Exchange (JPX Group, July 2023)
- #1**
in world-class GreenTech patents (GreenPatent, 2024)
- #10**
among global startup ecosystems (Startup Genome, 2024)

Approx. US\$15 trillion
in household financial assets in Japan. Over half is in cash deposits, which upcoming legislative changes aim to unlock — a huge opportunity for asset managers.

WHY TOKYO?

- Deep stock and bond markets backed by ultra-secure financial infrastructure
- Huge concentration of banks, financial institutions, technology giants, venture capitals and startups
- Finance sector directly connected to Japan's formidable industrial prowess
- Multilingual one-stop business support and easy access to talent across finance and technology
- Flourishing green finance sector, with fast-growing markets for green bonds and ESG/impact investment

The Organization of Global Financial City Tokyo
FinGATE KABUTO, 6-5 Nishimbashi-Kabuto-cho, Chuo-ku, Tokyo 103-0026
Japan 103-0026 contact@fincity.tokyo
https://fincity.tokyo/en

#TokyoFinanceHub
https://twitter.com/TokyoFinanceHub
https://www.linkedin.com/company/fincity-tokyo
https://www.facebook.com/fincitytokyo



英文情報開示支援事業(Disclosure G) 1/2

- 東京市場の魅力向上のため英文開示実施率の向上と上場会社のIRスキルアップを目指す
- 個別支援、英文IR人材育成講座、英文IRワークショップを実施

主な成果

- **15**社への個別支援を実施
海外投資家向けIRに関する助言、開示書類の英訳、IR動画作成支援等
- 英文IR人材育成講座／ワークショップ(2日間開催、**707**人参加)
会場参加者(2日間計152人参加)の昨年度比増(昨年度:137人)
- IR担当者同士のネットワーク構築、知見の共有を促進

1 個別支援

- 支援内容(日本取引所グループ、東京証券取引所後援)
エクイティストーリーの構築支援、決算関連資料の英訳支援、
海外投資家とのコミュニケーション支援、IR動画の制作
- 個別支援実施企業
東京証券取引所のグロース市場又はスタンダード市場に上場している企業のうち、海外投資家へのIRやグローバル市場への事業展開に意欲を持つ15社を選定
(株)アイビス、INTLOOP(株)、(株)MFS、(株)ケイファーマ、ポート(株)、(株)リベロ、(株)くすりの窓口
(株)ティムス、(株)スタメン、(株)FRONTEO、クリアル(株)、(株)Aoba-BBT
ダイナミックマッププラットフォーム(株)、(株)ビーイングホールディングス、(株)オプティマスグループ



英文IR人材育成講座の様子
(2025年10月)



英文IRワークショップの様子
(2025年10月)

2 英文IR人材育成講座(日本取引所グループ及び東京証券取引所と共催)

●実施内容

企業の経営陣やIR担当者を対象に、海外IRの専門家や英文開示を実施している上場企業のIR担当者による英文開示及び海外投資家対応に関する知見を提供

	英文IR人材育成講座
開催日時	2025年 10月8日、9日 13時30分～17時30分
開催形式	ハイブリッド開催 (オンライン+会場(東証ホール))
申込総数	1,034名 (うち参加総数:707名、会場参加は152名)
主な内容	海外投資家向けIRについての、IR専門家によるセミナー／ パネルディスカッション
当日配布資料 アーカイブ動 画	https://fincity.tokyo/activities/2954/



金融系外国企業発掘誘致事業(Attraction U)



誘致企業東京オフィス開設セレモニー
(Fiera Capital社)



FGFに登壇した誘致企業
上: Alpha Square Group社
下: KBRA アジア社



事業内容と目的

- 東京の金融エコシステムの発展につながる金融系外国企業の発掘や東京への進出計画の具体化及びその実行に向けたきめ細かいサポート
- 東京を世界から資金・人材・情報が集まる国際金融拠点とするべく、金融エコシステムの発展に繋がる金融系外国企業を効果的に発掘し、誘致すること

主な成果

- 拠点設立に向けた伴走支援(計画5社程度)
⇒資産運用会社**10社**※、FinTech企業**4社**
※その他、ファンド事務管理会社1社に伴走支援中
- 拠点設立・事業開始企業(計画5社程度)
⇒**4社**(資産運用会社3社、FinTech企業1社)
資産運用残高合計 **\$125.4B**(計画\$15B)
⇒Fiera Capital社、Alpha Square Group社、Alumni Ventures社
企業価値評価額合計 **\$0.3B**(計画\$1B)
⇒ADDX社

課 題

- 日本の金融市場において**プレーヤーの参入が十分でない分野、技術が未成熟な分野に属する企業をさらに発掘**していくことが必要
- 同事業の認知度は高まりつつあるものの、**FCT会員や国内外で関係を構築したステークホルダーとより一層連携**し、誘致対象企業を掘り起こしていくことが必要



TIBでのネットワーキングイベント



登壇者一覧



ピッチイベントの様子

事業内容と目的

- 東京市場に参入した外国企業にビッチイベントと日本企業とのビジネスマッチング
- 東京に進出した資産運用業又はFintech 事業を営む金融系外国企業のスムーズな事業展開と国内金融エコシステムへの参入促進
- 東京に進出した金融系外国企業が抱える課題の解決及び都内での事業定着を図る

主な成果

ネットワーキングイベントにおいて、**今年度新たにビジネスマッチング面談の機会を設定し**、協業パートナー探索の促進を図った。

- ビジネスマッチング
60社以上との面談実施(※計画25社程度)
- 協業事例(NDAやPoC、事業化を含む)
2件(※締結予定)

課題

- 協業事例の増加に向けて、**質の高いビジネスマッチング機会の拡大**
- イベント終了後も登壇企業への継続的な進捗確認、助言等が必要

イベント登壇者

No.	会社名	事業概要	想定協業先
1	Protosure	保険商品の開発・販売に特化したノーコードプラットフォームを提供する米国発の企業	保険、アセットマネジメント、銀行、ITコンサル等
2	GeoX GIS Innovations	AIと航空画像解析技術を活用して、不動産や建物に関する高精度な属性データを提供するイスラエル発の企業	銀行、不動産投資会社、信託・資産管理会社、不動産テック企業、保険会社等
3	Pulse iD	AI技術を活用して顧客向けリワードプログラムをパーソナライズする、顧客体験(CX)向上ソリューションを金融機関や企業向けに提供するシンガポール発の企業	顧客へのリワードプログラムを有する事業者(銀行・金融、カード会社、小売・サービス、航空会社等)等
4	Unravel Carbon	AIカーボンエンジンとカーボンデータベースを活用し、企業およびサプライチェーン全体のGHG排出量データを可視化・分析するプラットフォームと、AIEージェントを提供するシンガポール発の企業	金融機関、保険、製造、自動車、小売り、流通、商社、製菓等
5	KBRA	米国発の総合信用格付機関	保険会社や銀行等の金融機関、ファンド、企業等
6	Graphen Japan	人間の脳機能をモデルにした革新的な独自のAIプラットフォームを開発する米国発のテクノロジー企業	金融、保険、Sier、製菓、医療機関、自動車、2Cビジネス(小売・交通・観光等)等
7	Securitize Japan	デジタル証券の発行・管理プラットフォームを提供する米国発の企業	2Cビジネスを展開している事業会社、銀行、信託銀行、証券会社、地方銀行、不動産、地方創生事業者等

Emerging Managers Program 1/13



EM Showcaseの紹介



TAMFパネルディスカッション



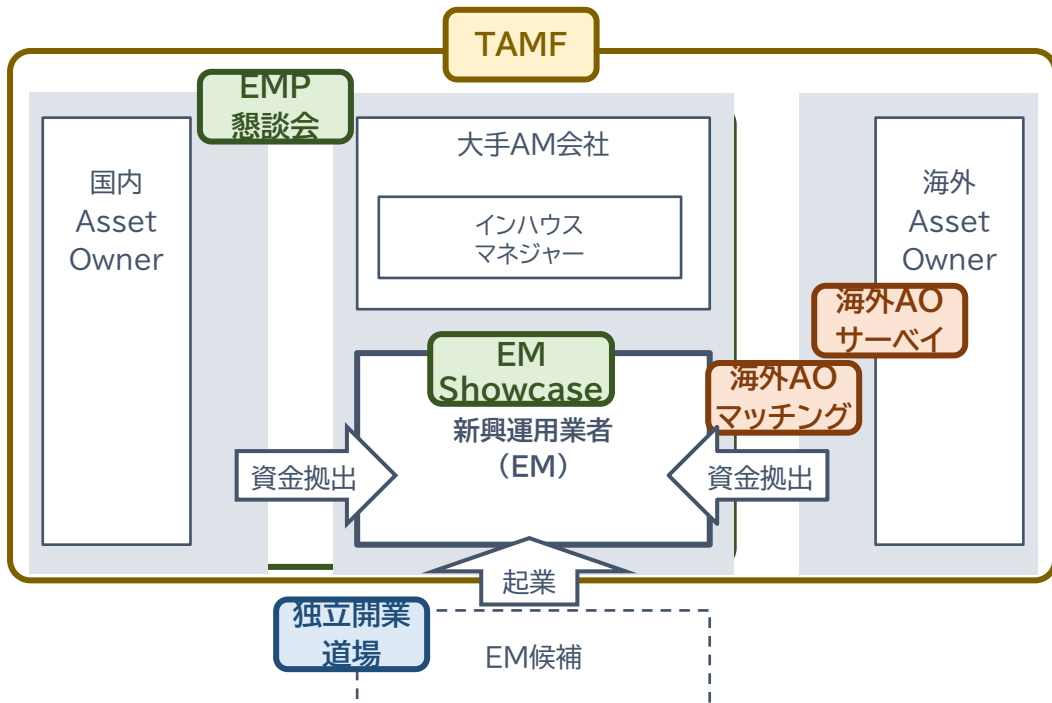
EM Showcase2026登壇者

主な成果

- EM showcase 2026:**16社**のリスト公表 ([ウェブサイト](#))
- かんぽ生命**および**大和証券グループ**が、**EM Showcase**を活用して、EMへ運用委託を実施(**計3件**) *参考:プレスリリース([①](#) [②](#) [③](#))
- Tokyo独立開業道場 対面イベント実施(2/13)
(参加者数:2024年度50名→2025年度**78名**)
- 海外アセットオーナー(AO)との接点構築・強化
 - EMとのマッチングイベントに参加したAOの数が増加
(FY2021-2023:各年3社 →2024:年5社 →2025:年**14社**)
 - 7月**LA出張**で関係構築した**UCLA**が**6年ぶりに来日**、国内EM4社との個別マッチングイベントを**東京**で8月19日に**対面開催**
- 国内アセットオーナーとの接点構築(新規事業)
産業革新投資機構(JIC) 執行役員 ファンド投資室長 秦由佳 氏を登壇者に迎え、21社のEMが参加

EMP事業の目的：新興資産運用業者(EM)の市場参入を促進し、国内資産運用業の多様化・高度化を促進

EMP各プロジェクトの位置づけ



- 1 主要プレーヤーが一堂に会するフラッグシップイベント**
Tokyo Asset Management Forum (TAMF)
 EMPの認知度向上及びEMを始めとする国内資産運用者と機関投資家とのマッチング機会の創出
- 2 国内EMと海外AOとの架け橋**
海外AO マッチング
 EMと海外AOのマッチング機会創出
海外AO サーバイ
 海外AOに対するEM投資の実態調査
- 3 国内EMへの資金拠出を促進するための施策の検討・実施**
EMP 懇談会
 「AOからEMへの資金拠出」を後押しするための施策の具現化。
EM Showcase
 注目に値する国内EMを見える化して紹介することで、EMの認知度向上を促進
- 4 次なる国内EMの創出と育成**
独立開業道場
 先輩EMや専門家による実務的な情報提供を通じた、次世代EMの独立・開業促進

Timing	Topic	Speaker/ Moderator
9:00-9:05	開会挨拶 Opening remarks	● FinCity.Tokyo 専務理事 森田 宗男
9:05-9:15	資産運用立国の実現に向けた取組	● 金融庁 伊藤 豊長官
9:15-9:25	EM Showcaseの紹介 Introduction of EM Showcase	● FinCity.Tokyo シニアアドバイザー 石田英和
9:25-10:40	EM Showcase(自社紹介プレゼン)	● グロースパートナーズ 代表取締役 古川 徳厚 氏 ● Dears CAPITAL パートナー 鈴木 絵里子氏 ● D3 LLC マネージング・パートナー 永田 智也 氏 ● カンフォーラ・キャピタル 代表取締役CEO兼CIO 竹中 佑旗 氏 ● Funds Startups CEO 前川 寛洋氏
10:40-10:55	休憩(EM Showcase Photo session)	
10:55-11:40	Panel discussion:エマージング・マネージャーへの投資判断ー ファミリーオフィスと機関投資家の視点ー	● チャートウェル・ファミリー・パートナーズ シニアアドバイザー ダニエル・ジム氏 ● カッター・ホールディングス・ファミリーオフィス 投資マネージャー レオ・ラム氏 ● ルポフ／ステューブンス・ファミリーオフィス 副社長 ケイ・マキシ氏 ● TIFFインベストメント・マネジメント 投資ディレクター ジュリア・ザン氏 ● モデレーター: ビジュアル・アルファ プロジェクト・コンサルタント スカーレット・リー氏
11:40-12:25	日本版EMPの現在地	● インベストメントLab 代表取締役 宇根 尚秀氏 ● かんぽ生命保険 専務執行役／東京国際金融機構 理事 春名 貴之 氏 ● 産業革新投資機構 執行役員 ファンド投資室長 秦 由佳氏 ● 柏総合研究所 代表取締役 辻本 臣哉氏
12:25-13:45	Lunch networking	

#	会社名・代表者	起業の経緯・運用戦略	事務局による一押しポイント
1	カンフォーラ・キャピタル株式会社 CEO/CIO 竹中 佑旗 氏 (2024年6月会社設立)	● 上場日本株を中心に長期集中投資。 ● サプライチェーンを横断した緻密な調査を行い、事業理解に根差した建設的な対話を通じて企業の持続的な超過利益の拡大を支援。 ● “Deep Research”と”Deep Engagement”の好循環を構築。	● 長期投資家として著名なJanchor Partnersやみさき投資にてアナリストとして従事した竹中氏が中心となって立ち上げた会社。 ● 投資先企業とのエンゲージメントは、今後更に需要が高まると考える。
2	fundnote株式会社 (IPO crossover) CEO 渡辺 克真 氏 CIO 川合 直也 氏 (2021年8月会社設立)	● 上場後5年以内の中小型株と未上場株(N-2)の銘柄に投資するIPOクロスオーバー戦略。 ● CIOである川合 直也氏がファンドマネージャー。 ● 絶対リターン型のアクティブファンドを展開する直販のファンドプラットフォーム。「運用者の顔や人柄、投資哲学が見える」ブティック型の運用商品を提供。	● IPO直後にVCの支援が途切れ、新たに支援する投資家が見つからないことで、成長が止まってしまう企業が多い『死の谷底問題』を解決できる運用戦略。 ● アナリストのカバレッジが少ない中小型株を投資機会ととらえている。
3	Nezu Engagement Fund* パートナー: 河北 博光氏 (ファンド設立 2025年)	● 2024年に根津アジアキャピタルに河北氏が参画し、新規日本株エンゲージメントファンドを立ち上げ。 ● 上場中小型株の経営者やIRとコミュニケーションを深めるエンゲージメントを行う。 ● 投資先は数社程度に社数を絞り厳選して投資を行う。	● 企業との対話を通じて投資先と信頼関係を構築して、エンゲージメント運用している。 ● 国内外両方の運用会社で20年以上の経験を積んでいる。

*今回ファンドでの選出のためファンド名を記載。 85

#	会社名・代表者	起業の経緯・運用戦略	事務局による一押しポイント
4	リノビアパートナーズ 合同会社 代表パートナー 獵山 主理 氏 (2023年7月会社設立)	● 老朽化する社会インフラ整備のニーズが高まる中、担い手である中小企業の事業承継課題の解決と業界再編による生産性向上を推進する存在が必要との考えから起業。 ● 国内の建設業界(中小・零細)に特化したバイアウトファンド。	● 日本の中小企業に対して、資本提供・ネットワーク・ハンズオン支援を行い、企業の後継者不足解消、生産性向上、事業拡大を支援。 ● 高齢化が進む全国の建設業界における事業承継課題を解決し、地域活性化を通じて地方創生を実現。
5	グロースパートナーズ株式会社 代表取締役 古川 徳厚 氏 (2022年7月会社設立)	● 飲食、IT、製造業などへの投資を強みとするPEファンド(PIPES・バイアウト戦略)。 ● PIPES:成長～再生フェーズの中小上場企業を対象に転換社債等での新規増資+ハンズオン支援により時価総額向上実現を目指す投資戦略。タカキュー、ランサーズなど。 ● バイアウト:中小の事業承継案件中心への対応投資。オーナー再出資と一緒に企業価値向上を目指すスタイルも積極的に実施。メルヴェイユ、Y Corporationなど。 ● 両戦略共通して、事業計画策定、マネジメント採用、M&A、海外展開、オペレーション改善、マーケティング、PR、IRなど多岐に支援。	● マッキンゼー、主要投資銀行、PEファンド出身のプロフェッショナルで構成され、複数業種にわたる知見と、成長支援・事業再生・業務改革における豊富な経験を有している。 ● 上場企業を対象とした案件のソーシング、投資、支援、エグジットにおける高い能力。
6	株式会社Dears CAPITAL 代表パートナー 倉増 銀一 氏 代表パートナー 小岸 弘和 氏 (2025年3月会社設立)	● 中小企業をターゲットとしたバイアウト戦略。 ● 代表の倉増氏は、CLSA(サンライズ・キャピタル)で10年にわたりPE投資に従事、小岸氏は、全国規模の事業拡大、新規事業創出、M&Aによる事業再生を実績にもつ経営者。 ● 特に、女性の活躍推進に注力し、優秀な人材の採用、最適な配置、そして組織の強化を通じて、企業の成長と投資リターンの最大化を図る。	● 人的資本の強化に重きを置いた独自の「Wonder Engagement」プログラムによるバリューアップ支援。 ● MPowerのMDであった鈴木氏の知験を活かし、女性の活躍推進に注力。 ● 外部委託せずに自社でハンズオン支援を行う体制。

#	会社名・代表者	起業の経緯・運用戦略	事務局による一押しポイント
7	REVA株式会社 共同代表パートナー 西中 顕吾 氏 共同代表パートナー 河合 隆信 氏 (2021年2月会社設立)	● 住友商事、アクセンチュア、日本産業パートナーズ出身のメンバーが独立し、立ち上げたファンド。 ● 中堅・中小企業に対し、経営権取得型投資を通じて、オペレーション支援及びDX推進を実施。 ● 住友商事がスポンサーとなる独立系ファンド。	● 金融分野外の出身を活かし、大手総合商社やIT企業と連携して、DX手法のハンズオン支援を実施。 ● 事業課題の解決や競争力強化を図る。 ● 国内外400社・6兆円超の事業投資及びバリューアップの実績を有する。
8	X&KSK (X&Management Japan 合同会社) Co-founder & GP 本田 圭佑 氏 Managing Partner 山本 航平 氏 (2024年会社設立)	● 本田圭佑氏は、2016年にKSK Angel Fundを設立し、200社以上のスタートアップ企業へ投資。 ● 2018年に俳優のWill Smith氏と共同でDreamers Fundを設立し、セレブリティファンドの先駆けとなる。 ● X&KSKでは、日本のスタートアップがグローバル市場へ進出し、デカコーン企業へ成長するのをサポート。	● プロサッカー選手である本田圭佑氏の国内外のネットワークを活用したソーシング力及び投資先企業へのサポート。 ● KSK Angel FundとDreamers Fundを通じて200社以上に投資してきた本田氏に加え、マネージングパートナーの山本氏はRakuten Capitalでのグローバル投資や、100社以上と連携する「RakuNest」での活動を通じて国内外の幅広いネットワークを構築。
9	QXLV (クオンタムリープベンチャーズ株式会社) 代表パートナー 古谷 健太郎 氏 (2019年3月会社設立)	● 東京及びCA州に拠点を置く独立系シードステージVC。 ● 代表パートナー古谷氏は、元ソニー社長である出井伸之氏の影響を受け、2019年にクオンタムリープから独立スピンアウト。 ● 「Day1グローバル」を志す日本及び米国スタートアップ60社以上に投資。	● 創業前フェーズから起業家に対する、グローバル展開を見据えた伴走支援に強み。 ● 「AI・ディープテックの社会実装 x 日米クロスボーダー」をテーマに、テクノロジーを通じて社会課題解決を目指すスタートアップへ幅広く投資。

#	会社名・代表者	起業の経緯・運用戦略	事務局による一押しポイント
10	D3 LLC マネージングパートナー 永田 智也 氏 パートナー 綿谷 健治 氏 (2019年10月会社設立)	● ヘルスケア特化VC ● 米戦略コンサル(McKinsey)出身、かつ、博士や医師、グローバル製薬本社や米ファンド出身者からなるコアメンバが、サイエンスxビジネスの専門性をもち経営支援 ● 治療(創薬、バイオテクノロジー等)、ディジーズマネジメント(デジタル/データヘルス等)、次世代ヘルスケア(医食同源、アンチエイジング、ウェルビーイング等)において、世界の医療健康に貢献する企業へ投資 ● ヘルスケア投資の成功は、財務的リターンと社会的インパクトを同時に実現し得るという信念を実証 ● 価値創造に向け、カンパニークリエーション、ターンアラウンド、スピンアウト/MBO等、多様な投資スキームをクリエイティブに展開	● 代表パートナーは国内最大級の政府系R&Dプログラムで実績を有する。 ● 企業価値向上を目的としたハンズオン支援を行い、世界の健康課題の解決を通じて、ソーシャルインパクトと経済リターンの両立を目指す。
11	New Commerce Ventures株式会社 CEO/CIO 松山 馨太氏 CEO/CIO 大久保 洸平氏 (2022年8月会社設立)	● サプライチェーン全体の課題解決を支援するVCファンドを運用。 ● 小売・流通のDX・SX(サステナビリティ・トランスフォーメーション)を推進するスタートアップに投資。 ● シード・アーリーを中心にオールステージで投資。 ● スタートアップと企業を繋ぐコミュニティを運営。	● ヤフーのCVC出身の松山氏と大久保氏が共同創業。 ● 小売・流通分野に特化した唯一の独立系ベンチャーキャピタル。 ● 業界団体への参画や、独自の研究・調査も行っている。 ● 投資対象企業と業界内のコミュニティを形成、ソーシングやエグジットの機会を確保。

#	会社名・代表者	起業の経緯・運用戦略	事務局一押しポイント
12	i-nest Capital株式会社 代表パートナー 山中 卓 氏 (2019年5月会社設立)	● AIをはじめとしたテクノロジーによる新産業の創造、社会課題の解決を目指す。 ● 主要な注力領域は、1)新たなライフスタイル・エンターテインメント、2)AIやDXによる既存産業への付加価値の創造、3)先端技術による革新的な産業の創造 ● シードから後期ステージまでをカバー。 ● 2019年に1号ファンドを設立し45社に投資(実績:3社IPO、3社M&A)。2025年1月に2号ファンドを設立し10社に投資。	● 山中氏は、株式会社日本興業銀行(現みずほ銀行)を経て、モバイル・インターネットキャピタル株式会社に入社。20年以上のベンチャー投資及び育成の実績を持つ。 ● パートナーの塚本氏も幅広い業界・業種にわたる約50社への事業戦略立案や間接業務の支援を行う。 ● 投資チームには若手も採用し、人材育成も行っている。
13	ONE Innovators株式会社 代表取締役 辻 秀樹 氏 島田 周 氏 清水 孝行 氏 村上 輝好 氏 (2023年8月会社設立)	● カーボンニュートラル領域に特化したVCファンド。 ● 大学や研究機関に根ざした脱炭素化関連技術を持つスタートアップへの投資に特化。 ● 国内のシード・アーリーステージおよび日本企業と協業を志向する国内・海外のミドル・レーターステージのスタートアップに対して、中長期的な伴走支援を実施。	● カーボンニュートラル特化型ファンド ● 共同創業者である辻氏は、通商産業省(現 経済産業省)に入省し、京都議定書交渉(COP3)、エネルギー政策等に従事するなど経験豊富。
14	Boost Capital株式会社 代表取締役社長 小澤 隆生 氏 (2024年1月会社設立)	● 日本のスタートアップを中心にオールステージに投資。 ● 創業者は楽天イーグルスやPayPayを上げた元ヤフー社長の小澤氏。 ● 投資手法は、創業投資、PE(Private Equity)投資、VC(Venture Capital)投資の3モデル。 ● 2024年4月に1号ファンドを設立し、複数の機関投資家から資金を調達。既に創業投資1件、PE投資1件、VC投資18社へ投資済み。	● 事業売却(M&A)を中心としたエグジット戦略を採用(一般的なVCは、IPOが主なエグジット手法)。 ● 事業経営経験豊富なGPメンバーと、AIを活用したバリューアップに強みを持つ。

#	会社名・代表者	起業の経緯・運用戦略	事務局一押しポイント
15	SDFキャピタル株式会社 代表取締役 / 共同創業者 福田 拓実 氏 共同創業者 金坂 直哉 氏 石倉 吉彦 氏 (2021年11月会社設立)	● 国内のスタートアップ企業向け(アーリー～ミドル～レイターステージ)のデットファンドを専門に運用。 ● 紀陽銀行やマネーフォワードなど数社が出資。 ● 代表の福田氏は、UFJ銀行(現三菱UFJ銀行)出身、2014年以降は、トパース・キャピタルにて従事、融資実行案件は60件、250億円に上る。 ● 共同創業者の金坂氏は、ゴールドマン・サックスを経て、マネーフォワードに入社し、CFOとしてM&Aを通じて非連続成長を牽引。現在は取締役を務めながら、グループのVCであるHIRAC FUNDの代表として、ベンチャー企業のファイナンスに密接に関与。 ● 同じく共同創業者の石倉氏はKPMGあずさ監査法人を経て、アカツキに入社。Dawn Capital代表として投資事業に従事しながら、複数のスタートアップ企業の役員を務める。	● 日本初の独立系スタートアップデットファンド。 ● 企業融資に関する様々な専門性を持つ福田氏と、スタートアップ企業及びベンチャーキャピタル投資事業で経験を積んだ金坂氏・石倉氏が、スタートアップの資金調達手段の多様化に挑戦。
16	Funds Startups株式会社 代表取締役 前川 寛洋 氏 (2023年12月会社設立)	● 「社会的インパクトを創出するスタートアップが、最も理想的な成長を遂げられる仕組みを開発する」をミッションとして設立。 ● デットでの資金供給が不足するミドル・レイターのうち特にディープテック領域に注力し、テイラーメイドで各社に最適な金融手法を提供することで新産業の成長を支援している。	● 累計1,000億円以上を国内外の新興企業に融資を行う、国内最大規模のレンディングプラットフォーム”Funds”にて、取締役CFOを務める前川氏が設立。 ● 国内唯一の独立系ベンチャーデットファンドとして、多様な金融バックグラウンドを持つ専門家集団による、高度な事業性審査力及び金融手法開発力を生かした独自のスコアリングモデルとAIを活用し、持続可能な仕組みを構築。 ● 1号ファンドながら三井住友信託銀行、りそな銀行他、大手地銀を中心に機関投資家から資金を受託。

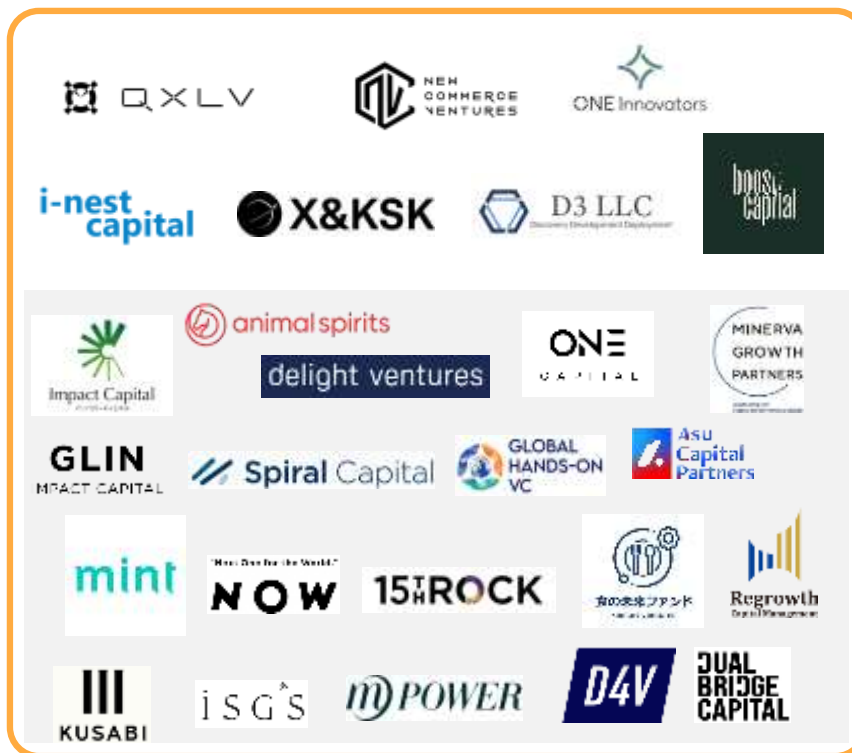


Showcase対象企業の選定に際しては、各選定委員の所属企業又はその関連企業が選定の候補となった場合には、当該選定委員は当該企業に係る選定のプロセスには参加しないこととする措置を取る。

Japanese Equity Active Management / Hedge Funds



Venture Capital



Buy-out / Others



注：グレー背景は過去年度選出EM

*EM Showcase選出内容に基づいて分類

2026年2月13日(金)実施

令和7年度Tokyo独立開業道場 対面イベント

場所: FinGATE KAYABA 東京都中央区日本橋茅場町1-8-1

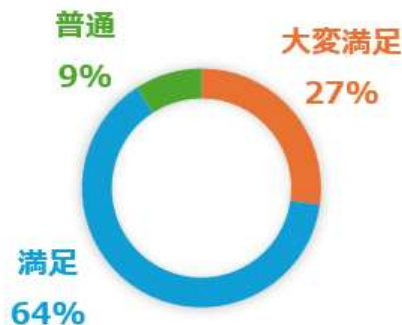
時間: 18:00~21:00

参加者数: 78名(昨年度50名)

開業道場 会場の様子



本日のセミナーの満足度はいかがでしたか？



参加者の声:

「EM毎に様々な工夫をされている事、EMをサポートする各プレイヤーの想い、それぞれ大変勉強になりました。」

「コンテンツなど進め方は良かったと思います」

TIME TABLE

Time	テーマ	登壇者 (敬称略)
18:00-18:10	主催者挨拶	一般社団法人東京国際金融機構 (FinCity Tokyo) 専務理事 森田 宗男
18:10-18:20	「資産運用立国のこれまでの取組について」	金融庁 監督局 資産運用課 資産運用監督管理官 竹部 聡希
18:20-19:05	パネルディスカッション#1 「Emerging Managerとしての軌跡 ～起業・独立から成長戦略まで～」	パネリスト カンフォーラ・キャピタル株式会社 代表取締役CEO 兼 COO 竹中 佑旗
		日本橋バリューパートナーズ株式会社 創業事業開発投資責任者 高柳 健太郎
		Fundnote株式会社 代表取締役社長 渡辺 克真
		モデレーター 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社 専務執行役員 森本 重喜
19:05-19:15	休憩	
19:15-20:00	パネルディスカッション#2 「EMPへの取り組みと求めるEM像」	パネリスト カディアキャピタルマネジメント株式会社 代表取締役社長 坂本 一太
		株式会社かんば生命保険 運用企画部 運用計画担当 中野 敬史
		大和アセットマネジメント株式会社 アドバイザー 副総務・チーフ・ファンドマネージャー 江口 直紀
		モデレーター エニメントグループ株式会社 代表取締役社長CEO 小野塚 恵美
20:00-20:10	準備	
20:10-21:00	ネットワーキング	参加者全員での懇親会

■概要

- 日時:2025年 11月 5日(水) 16時~18時 (17時から登壇者も含めた名刺交換会)
- 会場:JIAM Fintech Square 〒103-0026 東京都中央区日本 橋兜町 6-5 FinGATE KABUTO 3F Room 5
- 参加対象者:日本国内に拠点を持つ、創業から10年以内の資産運用業者またはベンチャーキャピタル (定員 30名)
- 参加費:無料
- 登壇者:産業革新投資機構(JIC) 執行役員 ファンド投資室長 秦由佳 氏
- 講演「産業革新投資機構(JIC) のファンド投資クライテリア これまでの投資実績・投資後の伴走について」

■結果

- 申込み者数:29名(21社がEM)
- 金融庁(問い合わせ有)・東京都も参加
- 参加者からのコメント
 - 「このようなイベントをもっと開催してほしい」
 - 「FinCity.Tokyoがこのようなイベントをやっていることを知らなかった」
 - 「他アセットクラスと比較してVC投資がどうなのかという点は考えたことがなかった。EMPという切り口でVC以外のアセットマネージャーと交流できる機会はとても新鮮だった」
 - 「EMP事業を知らなかったがJIC様より招待を受けて参加した」



Tokyo Sustainable Finance Week実施事業 1/2

- Tokyo Sustainable Finance Weekは、東京都及び金融庁と連携し、サステナブルファイナンスフォーラムと中堅・中小企業向けサステナビリティ経営促進セミナーを実施
- 持続可能な都市づくりに貢献するESG投資やサステナブルファイナンスの普及、及び同分野における東京のプレゼンスの向上を図る



開催日	イベント名	申込者数	参加者数	参加率(%)	会場参加者数	オンライン参加者数	ネットワーキング
2025年 10月15日(水)	Tokyo Sustainable Finance Forum 2025	1266	649	51	249	400	125
2025年 10月24日(金)	中堅・中小企業向けサステナビリティ経営実践セミナー	487	300	62	86	214	67

主な成果

- 参加者は毎年増加しており、国内外金融機関向けのサステナブルファイナンスイベントとしての一定の認知度を得た。
- 昨年に引き続き、地域金融機関と中堅・中小企業の取組紹介及び知見の共有が好評

課題及び2026年度に向けて

サステナブルファイナンスのリーディングシティを目指し、都の取組強化のもと、TSFFをFCTの旗艦イベントの一つとして位置付け、ゲスト招聘やテーマ選定など海外ロードショーやFGF等と連携しながら、サステナブルファイナンスの発信の場としての機能を拡充する。中堅・中小企業向けセミナーについては、より直接的に対象企業の方に情報発信すべく、開催方法の見直しを行う。

Tokyo Sustainable Finance Forum 参加者推移

	2025年度登録者	2024年度	2023年度	2025年度参加者	2024年度	2023年度
	1266	1033	1027	649	593	487
現地	640	398	303	249	195	156
オンライン	626	635	707	400	398	331
前年比	22.55%	0.58%	30.66%	9.44%	21.77%	1.56%



基調対談



AI×金融パネルディスカッション



閉会挨拶

中堅中小企業向けサステナブル経営セミナー 参加者推移

実績	2025年度	2024年度	2023年度(都主催)
現地参加	86人	75人	57人
オンライン参加	214人	191人	58人
合計	300人	266人	115人



開会挨拶



女性活躍
パネルディスカッション

都民向け金融セミナー実施事業

主な成果

- 次世代を担う金融業界・スタートアップの若者から初めての投資をする若者まで幅広いターゲットを対象
- FCT独自の次世代に向けた先駆的なセミナーの開催、特に若い女性に向けた金融リテラシーの向上を実現
- 50－60代向けは満席、無料相談ブースも好評

課題

- 登壇者の属性による男女の集客比率に偏りが発生(今回は女性が多数)→男女共に人気がある登壇者を検討
- 当日キャンセル発生を防ぐことが困難(無料であるが故)→より歩留まりを考慮した集客設定が必要
- 無料相談ブースのプライバシー配慮不足(他の人から見えてしまう、相談しづらい等)→会場確保時のレイアウト要検討

2025年度		2024年度
セミナー名	参加者数	
次世代金融・スタートアップ人材向けセミナー	181名(会場:78名、オンライン103名)	大学生向け金融セミナー228名
50－60代向けセミナー	563名(会場:139名、オンライン424名)	シニア向け金融セミナー 532名
若者向け金融セミナー第1回	1,021名(会場:160名、オンライン:861名)	若者向け金融セミナー無関心層向け699名
若者向け金融セミナー第2回	601名(会場:134名、オンライン:467名)	若者向け金融セミナー初級編324名
若者向け金融セミナー第3回	319名(会場:37名、オンライン:282名)	若者向け金融セミナー中級編127名



Tokyo Asset Management Forum(TAMF) & Fincity Global Forum(FGF)

2026年2月4日(水)

第3回FCT会員交流会 (兼 レセプション)

時間：17:30～20:30

場所：帝国ホテル東京 光の間

目的：会員企業、関係者の皆さまとの連携強化

概要：①MoU締結

②AI×金融 会員企画

③ネットワーキング

2026年2月5日(木)

TAMF* @Kabuto ONE Hall

時間：9:00～13:45

目的：EMPの認知度向上及びEMと機関投資家とのマッチング機会の創出

概要：①EM Showcase公表

②パネルディスカッション

③ネットワーキング

*:Tokyo Asset Management Forum

FGF* @Kabuto ONE Hall

時間：14:00～19:15

目的：国際金融都市東京の魅力を発信するフォーラムをFCTの旗艦イベントとして開催

概要：基調講演、パネルディスカッション等



日本語HP



英語 HP

Tokyo Asset Management Forum(TAMF) & Fincity Global Forum(FGF)

主な成果



TAMF



FGF



ブース出展

- EM Showcaseの公表、国内機関投資家の登壇、インフラ投資の活性化など、今後の政策提言に繋がり得る課題について議論。メディアによる**記事化(2件)**も含め国内外に広く発信

- イベントを通じて**1,182名**(昨年度比+16.8%)の参加、うち現地参加**495名**(昨年度比+5.3%)

- 国内外アセットオーナーの登壇拡大**など登壇者層を深化、TAMFの特色を強化。

- 招待制ネットワーキングを実施。質の高い交流を図ることができた。

- 会員企業のブースを初設置。約9社が出展し、イベント参加者等との交流を図った。

- イベントに合わせて**Financial Conduct Authority(英)**や**Frankfurt Main Finance(独)**などの訪日をアレンジし、**海外関係機関との関係構築**の機会とした。

課 題

- 取り上げたテーマが多岐にわたり、イベント時間が長時間になった。
- これに伴い、イベント後半の参加者数が減。時間短縮又は目玉となるコンテンツを最後に設定する等の工夫を検討

Timing	Topic	Speaker/ Moderator
9:00-9:05	開会挨拶 Opening remarks	● FinCity.Tokyo 専務理事 森田 宗男
9:05-9:15	資産運用立国の実現に向けた取組	● 金融庁 伊藤 豊長官
9:15-9:25	EM Showcaseの紹介 Introduction of EM Showcase	● FinCity.Tokyo シニアアドバイザー 石田英和
9:25-10:40	EM Showcase(自社紹介プレゼン)	● グロースパートナーズ 代表取締役 古川 徳厚 氏 ● Dears CAPITAL パートナー 鈴木 絵里子氏 ● D3 LLC マネージング・パートナー 永田 智也 氏 ● カンフォーラ・キャピタル 代表取締役CEO兼CIO 竹中 佑旗 氏 ● Funds Startups CEO 前川 寛洋氏
10:40-10:55	休憩(EM Showcase Photo session)	
10:55-11:40	Panel discussion:エマージング・マネージャーへの投資判断ー ファミリーオフィスと機関投資家の視点ー	● チャートウェル・ファミリー・パートナーズ シニアアドバイザー ダニエル・ジム氏 ● カッター・ホールディングス・ファミリーオフィス 投資マネージャー レオ・ラム氏 ● ルポフ／ステイブンス・ファミリーオフィス 副社長 ケイ・マキシ氏 ● TIFFインベストメント・マネジメント 投資ディレクター ジュリア・ザン氏 ● モデレーター: ビジュアル・アルファ プロジェクト・コンサルタント スカーレット・リー氏
11:40-12:25	日本版EMPの現在地	● インベストメントLab 代表取締役 宇根 尚秀氏 ● かんぽ生命保険 専務執行役／東京国際金融機構 理事 春名 貴之 氏 ● 産業革新投資機構 執行役員 ファンド投資室長 秦 由佳氏 ● 柏総合研究所 代表取締役 辻本 臣哉氏
12:25-13:45	Lunch networking	

時間配分	事項	テーマ・内容	登壇者(敬称略)
14:00-14:05 (5分)	開会挨拶	—	小池 百合子(東京都知事)
14:05-14:45 (40分)	基調対談	グローバル地殻変動時代の 国際金融センターの連携	中曽 宏(FCT)×Oliver Behrens(Frankfurt Main Finance)
14:45-15:35 (50分)	パネル①	国際的なマクロ環境と 国際金融センターとしての東京の戦略	Robert Kahn(Eurasia Group)、進藤 達(国連合同職員年金基金)、本田 桂子(早稲田大学ビジネススクール)、土井 正巳(クレアブ)、アルベルト 田村(モルガンスタンレー、FCT理事:モデレーター)
15:50-16:25 (30分)	ピッチ	Attraction U(金融系外国企業発掘誘致事業)誘致企業	FCTが誘致してきた企業から5社登壇:Select Equity社、Alpha Square Group社、Fin Capital社、KBRA社、Linnovate社
16:50-17:40 (50分)	パネル②	国際金融センターとしてのクロスボーダー決済のデジタル化の意味:趨勢と展望	Emmanuelle ASSOUAN (Banq de France)、Alan Lim (Monetary Authority of Singapore)、上野 義明(三菱UFJグループ、FCT理事)、河村 謙(Tradewaltz)、井上 哲也(野村総研:モデレーター)
17:40-18:30 (50分)	パネル③	日本でインフラ投資を離陸させるための条件とは	伊藤 佳代(NTTリミテッド・ジャパン)、豊田 祐介(デジタルグリッド)、小野 泰宏(ディープストーン・パートナーズ)、服部 経治(FCT理事:モデレーター)
18:30-18:40 (10分)	基調講演		片山 さつき(財務大臣)※ビデオメッセージ
18:40-19:30 (50分)	特別セッション	新たな投資資産としてのスポーツ・エンタメ:金融市場との融合戦略	Lisa Johnson(エルドリッジ・キャピタル・マネジメント)、宮川 暁世(日本政策投資銀行)、山本 航平(X&KSK)、有友 圭一(モデレーター)
19:30-19:35 (5分)	閉会挨拶	一日の締めくくり	小森 敬介様(QUICK、FCT理事)

以下の政府関係者等と個別に面談し、日本の産業に成長資金を呼び込むための課題等について意見交換を行った。特に、日本の投資事業有限責任組合(LPS)における諸課題についてについて議論し、当法人からは、海外ロードショー等を通じて得た市場参加者等からの声を共有しつつ、諸課題の解決に向けた政策提言を行った。

- 自由民主党 木原 誠二 衆議院議員との意見交換(2025年4月)
- 一般社団法人プライベート・エクイティ協会との意見交換(2025年4月)
- 株式会社日本取引所グループとの意見交換(2025年4月)
- 一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会との意見交換(2025年4月)
- 経済産業省との意見交換(2025年4月)
- 自由民主党 金融調査会への出席(2025年4月)
- 株式会社KKRジャパンとの意見交換(2025年4月)
- 自由民主党 神田 潤一 衆議院議員との意見交換(2025年11月)
- 自由民主党 片山 さつき 財務大臣との意見交換(2025年12月)

HPに提言資料及び結果を掲載

<https://fincity.tokyo/activities/2689/>

- 令和8年度与党税制改正大綱において、FinCity.Tokyoの政策提言項目である「外国組合員に対する課税の特例(PE課税特例)」の見直しが明記
- 具体的な内容としては、持分割合要件の出資上限が25%未満から50%未満に引き上げられたこと等が示されており、課税制度のグローバルイコールフットイングが実現
- 従来のPE課税特例の要件は、その厳格さから海外投資家からの国内ファンドに対するLP出資に対する障壁となっていたが、今回の改正により、LP出資の参入障壁の低減が期待

<令和8年度税制改正大綱（抜粋、134頁）>

五 国際課税

3 その他

（国税）

（１）外国組合員に対する課税の特例について、次の措置を講ずる。

①本特例の適用要件について、次の見直しを行う。

イ 投資組合財産に対する持分割合が25%未満であることとの要件について、投資組合の有限責任組合員等から構成される一定の委員会を設置する投資組合の有責任組合員の持分割合を50%未満に引き上げる。

ロ 投資組合事業に係る業務の執行等を行わないこととの要件について、その業務の執行の承認等から除外される行為の範囲を、利益相反取引の承認等（現行：の業務の執行を行う者の自己取引等の承認等）とする。

ハ 投資組合事業に係る恒久的施設帰属所得以外の恒久的施設帰属所得を有しないこととの要件を廃止する。

②上記①の改正に伴い、特例適用申告書等の記載事項の見直しを行うほか、所要の措置を講ずる。

その他の活動 代表理事の主な活動

主な活動・成果

- Eldridge Industries社Todd Boehly氏・小池都知事の面会に同席(3/18)
- 政策提言活動(木原誠二衆議院議員との面会)(4/3)
- ADIOエグゼクティブ・ディレクターHareb Al Meheiri氏との面会(4/14)
- 都グローバルアドバイザーとのオンラインミーティング(5/22)
- Brookfield日本オフィス設立10周年記念レセプション挨拶(5/22)
- ジョージ・グラス駐日米国大使との面会(5/30)
- 日豪アセットマネジメントの集いへの出席(6/11)
- 台湾の金融監督管理委員会(莊琇媛副主任委員含むデリゲーション)面談(6/24)森田専務理事(専務理事就任前)も出席
- 欧州出張(7/1-11)
- Transition Finance Forum~ paving a pragmatic path towards Net Zero登壇(7/3)
- 英国空母打撃群寄港記念レセプション出席(8/28)
- シティ・オブ・ロンドンとのMoU改訂調印式及びロードメイヤー来日歓迎レセプション出席(9/8)
- ルクセンブルグ大公国 ミシェル・レーシュ大使主催 ルクセンブルク元財務大臣のピエール・グラメーニヤ氏を迎えての夕食会出席 (9/24)
- 第1回会員交流会登壇(10/14)
- Tokyo Sustainable Finance Forum登壇(10/15)

その他の活動 代表理事の主な活動

主な活動・成果

- SMDAM Japan Investment Seminar 2025登壇(10/20)
- 神田潤一議員面会(11/21)
- Nihon Financial Roundtable(在日中央銀行夕食会)登壇(11/28)
- 片山さつき財務大臣面会(12/1)
- ING銀行ジェームズ・ヘインズ氏面会(12/10)
- 企業年金シンポジウム登壇(12/12)
- 木原誠二議員、神田潤一議員との面会(1/13)
- 第3回会員交流会及びFMF調印式登壇(2/4)
- FGF及びTAMF登壇(2/5)
- Frankfurt Main Finance主催 エグゼクティブ朝食会出席(2/5)
- 2月ロンドンロードショー(2/11Responsible Investors取材対応、日本証券サミット登壇等)
- GFTN India Japan Day 登壇(2/27)
- Emissions Trading Schemes (ETS) and Carbon Credit Markets出席(3/4)
- 新任駐日フランス大使 バアトリス・ル・フラパール・デュ・エレン氏 面会(3/9)
- JERA 奥田久栄CEO、酒入和男CFOとの面会(3/18)
- Policy Chairman of the City of London Corporation Chris Hayward氏との面会(3/26)
- 小林史明議員との面会(3/31)

その他の活動 専務理事の主な活動

(有友圭一氏:2025年6月26日まで在職)

○政策提言活動

2024年度政策提言は、資産運用立国2.0および新しい資本主義実現会議提言書に反映

- 神田潤一(衆議院議員)との面談(3/14)
- 堀本善雄(金融庁政策立案総括審議官)との面談(3/17)
- 中西健治(衆議院議員)との面談(3/17, 4/24)
- 片山さつき(参議院議員)との面談(3/25, 6/5)
- 今枝宗一郎(衆議院議員)との面談(3/26)
- 経済産業省経済産業政策局との面談(3/28)
- 小林史明(衆議院議員)との面談(3/31, 5/16)
- 木原誠二(衆議院議員)との面談(4/3 5/8)
- 経済産業省 イノベーション環境局との面談(4/7)
- 自民党金融調査会出席(4/9)
- 内閣府との面談(4/11)

○左記以外

- Eldridge Industries社Todd Boehly氏・小池都知事の面会に同席(3/18)
- ADIOエグゼクティブ・ディレクターHareb Al Meheiri氏との面会(4/14)
- ADGM CEO・大阪府副知事面会 同席、大阪万博視察(5/6)
- CFA Institute/CFA Society Japan ESG Disclosure Round Table(5/13)
- 香港・マカオ出張(5/21-25)
- Beyond wealth summit Japan session登壇
- ジョージ・グラス駐日米国大使との面会(5/30)
- 誘致対象企業との面談(随時)
- 会員候補企業との面談等(随時)

その他の活動 専務理事の主な活動

(森田宗男氏:2025年6月27日以降現職)

- フランス大使館金融参事官(兼フランス中央銀行日本・韓国代表)Arthur Sogno-Pees氏との面談(7/17)
- Council on Economic Policies Research(CEP)のResearch Fellow & 米国財務省のSenior AdvisorであるMatthew Poggi氏(元在京米国大使館のフィナンシャル・アタッシェ)との面会(8/1)
- UK-Japan Transition Plan Dialogue - Initiation Meeting及びネットワーキング出席(8/19)
- シティ・オブ・ロンドンとのMoU改訂調印式及びロードメイヤー来日歓迎レセプション出席(9/8)
- Responsible Investorへの記事広告に係る森田専務へのインタビュー(9/10)
- 次世代 金融・スタートアップ人材向けセミナー登壇(10/3)
- Paris Europlace、フランス大使館との面談(10/8)
- 英文IR開示人材育成講座 閉会挨拶(10/8, 9)
- Tokyo Sustainable Finance Forum登壇(10/15)
- AIF APAC Forum登壇・AIF dinner出席(10/23)
- Anthony Rowley at Asia Asset Management取材(11/4)
- Global Fiduciary Symposium 2025登壇(11/11)
- シンガポール出張(11/13-11/15)
- 神田潤一議員面会(11/21)

その他の活動 専務理事の主な活動

- 片山さつき財務大臣面会(12/1)
- 2nd meeting of UK-Japan Transition Plan Dialogue(12/8)
- ING銀行ジェームズ・ヘインズ氏面会(12/10, 2/2)
- 木原誠二議員、神田潤一議員との面会(1/13)
- ドイツ連邦銀行駐日代表事務所クリーブランド所長面会(1/23)
- Reuters Asia/Europe Commercial Director Emma Ball面会(1/26)
- 第3回会員交流会出席(2/4)
- Eldridge Lisa Johnson氏 ランチミーティング(2/4)
- FGF及びTAMF登壇(2/5)
- FCA APAC Director Ms. Camille Blackburn 面会(2/5)
- EMP「独立開業道場」の対面セミナー挨拶(2/13)
- 新任駐日フランス大使 ベアトリス・ル・フラパール・デュ・エレン氏面会(3/9)
- コーポレート・アクション・ジャパン代表理事竹内氏面会(3/16)
- JERA 奥田久栄CEO、酒入和男CFOとの面会(3/18)
- 小林史明議員との面会(3/31)
- 会員候補企業等との面談(随時)

その他の活動 MoUの締結

【位置づけ】

都度交渉から、継続的に活用できる関係への移行

- ・組織間での協力関係を明確化
- ・東京のPR発信機会を継続的に確保
- ・単年度の連携ではなく、複数年度を見据えた連携を前提化

【MoUの価値】

- ・相手先主催イベントでの登壇・共催機会の確保
- ・東京開催イベントへの海外キーパーソンの参加誘致
- ・各金融センターの強みや関心の高いテーマでの連携(ESG、サステナブルファイナンス、インフラ、デジタル通貨等)

➡国内外の双方向での発信により高い相乗効果を見込む

Paris Europlace (2019年6月27日締結)

EMP、フィンテック、サステナブルファイナンス分野での連携

- ◆11月開催予定のParis Infra Weekでの連携(相互登壇、共催・後援等)
- ◆TSFW・FGF等のイベント登壇・連携を通じ、東京・パリで一貫したストーリーを発信

Frankfurt Main Finance

2022年11月22日(@ドイツ大使館)にてMoUを締結したが失効(1年間時限)。2026年2月4日再締結。

- ◆2月4日会員交流会@帝国ホテルにて、調印式を実施
- ◆2月5日FGFへのFMF CEOの登壇、2月ロンドン・欧州ロードショーにおいて、来年度の連携を整理

Luxembourg for Finance 2026年4月締結

- ◆2025年4月にMoUについて打診あり。CEO来日に合わせ、2026年4月27日に調印式@SusHiTech
- ◆2月ロンドン・欧州ロードショーにおいて、来年度の連携テーマの具体化(AM分野など)

ADGM(Abu Dhabi Global Market) 2026年以降継続検討

- ◆ADFWでのイベント登壇や東京でのイベント開催等の連携を継続模索

DIFC(Dubai International Financial Centre) 2026年以降継続検討

- ◆「Dubai Future Finance Week」等での連携を継続模索

その他の活動 イベントへの登壇等 1/4

- 2025年5月14日(水)16:00~17:00 FCT主催「Tokyo-India FinTech Workshop」
目的:東京進出に関心があるインドのフィンテック企業とのネットワークとサポート内容の紹介
出演者:FinCity.Tokyo事務局、平和不動産、Vistra、Plug & Play
- 2025年5月26日(月)12:00-13:00 エクサウィザーズ社主催「[企業価値向上のためのグローバルIR戦略とは？](#)」
目的:英文情報開示支援事業の認知度向上
登壇者:東海林、河井 浩一 株式会社Exa Enterprise AI、アライアンス戦略室室長
- 2025年6月24日(火)9:00-11:00@FCT「台湾金融監督管理委員会等使節団の来訪」
目的:FCTの国際金融都市推進に果たす役割等を習得
訪問者:台湾金融監督管理委員会 莊琇媛 副主任委員含む8名の使節団、日本台湾交流協会 稲森副長
出席者:中曽会長、増田事務局長、飛田次長、中村、東京都:関口次長(FCT理事)、三浦部長、村本部長、安藝課長
- 2025年9月26日(金)17:30~18:00 ストックボイスTV「Tokyo Financial Street 321」
目的:FinCity.Tokyoの認知度向上
出演者:東海林
- 2026年1月14日(水)14:00~15:00 FCT主催「Tokyo-Indonesia FinTech Workshop」
目的:東京進出に関心があるインドネシアのフィンテック企業とのネットワークとサポート内容の紹介
出演者:FinCity.Tokyo事務局、平和不動産、Vistra、Plug & Play



5月26日東海林出演



9月26日東海林出演

その他の活動 イベントへの登壇等 2/4

【Fall 2025 AIF APAC INVESTORS' FORUMの共催】

日時：2025年10月23日（木）09:00 - 17:30

場所：日本橋高島屋三井ビルディング日本橋ホール

共催：AIF APAC、FinCity.Tokyo、後援：東京都

参加：約60名

概要：年2回（春・秋）に開催するサミットをTSFWに合わせて誘致。
アジア太平洋地域の機関投資家（年金基金、保険会社等）を対象にした
招待制フォーラム

プログラム：

ウェルカムスピーチ：東京都副知事 松本明子氏

特別講演：AIの導入と資本市場の進化

Brant Maller（AIF Global）、Michinori Kanokogi（Nissay AM）、

Sam Y. Chung（AIF APAC / 延世大学）

Session1：マクロ経済・地政学リスク展望

part1 世界のマクロ展望（米国、韓国、日本）

part2 財政安定と東京都債（東京都財務局公債課長 橋口牧子氏）

Session2-6：ポートフォリオ構築（年金・SWF・保険の視点）、

プライベートクレジット投資、PE／VC投資、不動産・インフラ等への投資、

長期投資におけるテーマ課題等

閉会挨拶：FCT専務理事 森田宗男氏



森田氏、Sam氏、松本氏、Maller氏



東京都財務局橋口課長の登壇

その他の活動 イベントへの登壇等 3/4

【GFTN Forumへの参加について】

日 時:2026年2月24日(火)~27日(金)

概 要:[GFTN Forum, Japan](#)とは 金融庁やJPX、シンガポール金融管理局(MAS)等が協力し、テクノロジー主導の金融革新を推進する日本最大級の国際フィンテック会議

目 的:インド・シンガポールを中心とするFinTech企業等に対し、東京進出の機会や支援制度を紹介し、ネットワーク構築を図る。

活 動:① Tokyo-India FinTech Workshopの主催

② 中曽会長の基調講演「Tokyo as a global financial city」

③ ラウンドテーブル登壇:”Unleashing the potential of tokenization through collaboration between Singapore & Japan”

④ パネルディスカッション登壇:”Market entry playbook, India to Japan”

① Tokyo India FinTech Workshop(2月24日)

GFTN参加のインド企業に対し、FCT及びステークホルダーから東京進出支援についてを説明。また、東京進出企業(Traydstream、System9)から東京拠点設立の背景やプロセス、課題克服事例を紹介。

参加企業や業界団体から資料共有や継続的なコンタクトの要望があり、関係構築の契機となった。



② 基調講演:「Tokyo as a global financial city」(2月27日)

GFTNの依頼により中曽会長が登壇。「地政学リスク」や「資産運用立国としての日本」について言及し、また、日本とインド間の連携可能性として、「デジタル通貨」、「成長資金を動員するための公的・民間年金制度の強化」、「脱炭素及びトランジション」の3点を紹介。



③ラウンドテーブル(2月26日)

「Unleashing the potential of tokenization through collaboration between Singapore & Japan」

- ・日本・シンガポールの規制当局や民間企業が参加し、FCT竹腰がモデレーター役として登壇。
- ・「日シンガポール間のクロスボーダー決済の機会」、「中小企業における即時決済の必要性」、「市場の需要と規制当局の役割」、「観光客向け決済における課題と解決策」等の議題について議論を行った。

④パネルディスカッション(2月27日)

「Market entry playbook, India to Japan, Japan to India」

- ・日本とビジネスを行っているインド企業(Spice Money、Nium、Credit Saison India等)が登壇し、FCT竹腰(シニアリレーションシップマネジャー)がモデレーター役として登壇。
- ・「日印の金融市場における両国フィンテック企業がアクセスできるビジネス機会」「インド大都市圏以外の地域での金融包摂、零細事業者を支える金融サービス」「海外企業が日本で成功するための秘訣」等の議題について議論を行った。



③ ラウンドテーブル



④-1 パネルディスカッション
Copyright©2026 FinCity.Tokyo all reserved



④-2 パネルディスカッション:集合写真

その他の活動 SusHi Tech Tokyo 2025へのセッション登壇・ブース出展

実施内容

- **SusHi Tech Tokyo 2025**(5月8日～10日)は**アジア最大のスタートアップカンファレンス**
- VCを中心とした投資家とのセッション等はあるが、ファミリーオフィス(FO)とスタートアップとの接点はほとんどない
- FCTがセッションに参加。日本ではまだ馴染みのない**FOによるSU投資戦略について紹介**



 スタートアップを育む Others VCs/Investors Day1 Sun Pillar (ZoneA) 15:00-15:45

日本のスタートアップ投資を加速する、ファミリーオフィスの挑戦

Powered by FinCity.Tokyo

本セッションでは、ファミリーオフィスによるスタートアップ投資に光を当てる。VCとは異なる役割を担うファミリーオフィスの、長期的な視点と柔軟な投資スタンスが、日本の成長企業にどのような資金と戦略的支援をもたらすのか。ファミリーオフィスが日本市場で活躍するための環境づくりとともに、スタートアップエコシステムに新たな選択肢と可能性を切り拓く議論を展開する。



竹腰尚美
一般社団法人東京国際金融機構
シニアリレーションシップマネジャー



高岡淳二
東京大学協創プラットフォーム
開発株式会社
インキュベーションパートナー



Keiko Sydenham
LUCA Japan Co., Ltd.
Co-Founder CEO



Brandon Ge
Alpha Square Group
Director



Kay Makishi
Lupoff/Stevens Family
Office
Vice President



目的

- 会員企業、関係者の皆様との連携・関係強化

実施概要

- (1)第1回FCT会員交流会 2025年10月14日(火) 17:00～19:00
- (2)第2回FCT会員交流会 2025年12月19日(金) 17:00-20:30
- (3)第3回FCT会員交流会 2026年2月4日(水) 17:30-20:30

詳細は次頁以降参照

第1回FCT会員交流会「東京の金融エコシステムを支える資金・人材・政策」

開催概要

● **開催日時** : 2025年10月14日(火)17:00~19:00

● **開催場所** : ホテル椿山荘東京 胡蝶

● **プログラム** :

第1部: パネルディスカッション

「東京の金融エコシステムを支える資金・人材・政策」

- 小西昭博 国家公務員共済組合連合会参与兼CIO
- 内山朋規 東京都立大学金融工学研究センター長
- 橋口牧子 東京都財務局主計部公債課長
- 大山智子 FinCity.Tokyo事務局次長(モデレーター)

第2部: ネットワーキング

● **参加者数** : 128名

● **アンケート等** :

参加目的 → 8割が「参加者同士の交流」

アセットオーナーの対談を聞く貴重な機会だった。

セッションと交流会は別の場所 or 別のタイミングにした方が良い



トークセッション登壇者



ネットワーキング



参加者集合写真

第2回FCT会員交流会「国際金融都市 東京をデザインする」

開催概要

- **開催日時** : 2025年12月19日(金) 17時00分～20時30分
- **開催場所** : KABUTO ONE、KABEAT(東京都中央区日本橋兜町7-1)
- **プログラム** :

第1部:会員交流会 @KABUTO ONE ホールB

【基調講演】革新の点を繋ぎ、未来を動かす物語をデザインする
inspiring dots inc. 代表取締役CEO 重松 健 様

【パネルディスカッション】国際金融とまちづくりの接点

平和不動産株式会社 ビルディング事業部部長 本保 明香 様
三井不動産株式会社 日本橋街づくり推進部長 七尾 克久 様
三菱地所株式会社 イノベーション施設運営部長 島田 映子 様
森ビル株式会社 新領域事業部 統括部長補佐 竹田 真二 様

第2部:ネットワーキング @KABEAT

- **参加者数** : 119名
- **アンケート等** :

運営面での評価は「満足」「適切だった」が大半
重松様の基調講演が興味深かった
今後も同規模のイベントを開催してほしい 等



基調講演



パネルディスカッション



ネットワーキング

第3回FCT会員交流会「変化の中の国際金融都市・東京 国際連携とイノベーション」

開催概要

- **開催日時** : 2026年2月4日(水) 17時30分～20時30分
- **開催場所** : 帝国ホテル「光の間」(東京都千代田区内幸町1-1-1)
- **プログラム** :

第1部:Frankfurt Main Finance(FMF)とのMoU調印式

Frankfurt Main Finance オリバー・バーレンス 会長

Fincity.Tokyo 中曽 宏 会長

第2部:パネルディスカッション

AI技術による金融の高度化～到達点と今後の展望～

FNZ Japan株式会社 貝塚 元彦 様

TempestAI株式会社 池田 蒼 様

株式会社松尾研究所 金 剛洙 様

株式会社野村総合研究所 入江 眞 様

第3部:ネットワーキング

- **参加者数** : 129名
- **アンケート等** :

会場で行ったアンケートでは高い満足度が示された
「今回と同様の開催方法が望ましいと考えます」 等



MoU調印式



パネルディスカッション



ネットワーキング

国内外の関係機関による賛同を獲得し、正会員・賛助会員等の拡大を推進
2025年度中に会員5社が新規加入(内訳:正会員1社、賛助会員2社、新興企業会員2社)した。
退会した会員と合わせると、会員数は2025年度末時点で56社となった。
会員数の内訳は、正会員19社、賛助会員25社、新興企業会員8社、特別会員4社である。

種類	2024年度末	2025年度末	増減
正会員	20社	19社	-1社
賛助会員	27社	25社	-2社
新興企業会員	8社	8社	0社
特別会員	4社	4社	0社
合計	59社	56社	-3社

当法人の機能強化と関係機関の連携推進

事務局機能の強化については、昨年度に引き続き、東京都からの出向職員を7名、日本取引所グループからの出向社員を1名、平和不動産からの出向社員を1名とした。資産運用分野やフィンテック分野の専門家(シニアアドバイザー)6名の知見を活用し、国際金融都市・東京の魅力の発信や金融系外国企業の誘致活動を実施した。さらに、昨年度に引き続き、EMPシニアアドバイザーの石田英和氏による専門的立場からのEMPへのアドバイス等を活用するなど、積極的に専門家と連携して事業を進めた。

情報発信機能の強化に向けては、昨年度に引き続き、当法人のアンバサダーから、イベント登壇やSNS等を通じて、日本市場の動向や当法人の取組等を発信していただく等の協力を得た。アンバサダーの専門的知見や自らの経験を踏まえた発信は、国際金融都市・東京及び当法人の認知度・発信力の向上に大きく寄与している。

2025年度当法人アンバサダー

デービッド・セマイヤ氏	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社代表取締役会長
イエスパー・コール氏	カタリスト投資顧問株式会社シニア・グローバル・アドバイザー
チャン・リー氏	一般社団法人Fintech協会理事、株式会社hokanエグゼクティブ・アドバイザー

重要な契約に関する事項

理事会承認を得た重要な契約は以下のとおり。(*印は会員企業を相手方とする利害関係者取引の承認)

契約年月日	相手方	契約金額	契約期間	契約の概要
2025年4月1日	Plug & Play株式会社	6,400万円(税込)	契約の日から1年間	金融系外国企業発掘誘致事業(フィンテック分野)
2025年4月1日*	Visual Alpha株式会社	6,400万円(税込)	契約の日から1年間	金融系外国企業発掘誘致事業(資産運用分野)
2025年4月1日*	クレアブ株式会社	6,400万円(税込)	契約の日から1年間	海外メディア事業
2025年4月1日*	Visual Alpha株式会社	3,200万円(税込)	契約の日から1年間	EMPの普及促進事業
2025年4月1日*	株式会社時事通信社	4,000万円(税込)	契約の日から1年間	TSEFW実施事業
2025年4月1日*	株式会社時事通信社	5,000万円(税込)	契約の日から1年間	都民向け金融セミナー実施事業

重要な契約に関する事項

理事会承認を得た重要な契約は以下のとおり。(*印は会員企業を相手方とする利害関係者取引の承認)

契約年月日	相手方	契約金額	契約期間	契約の概要
2025年9月1日*	リフィニティブ・ジャパン株式会社	90,700円/月	契約の日から1年間	企業信用情報データベース利用契約
2025年10月1日*	リフィニティブ・ジャパン株式会社	234,650円/社 (標準的な調査内容の場合、消費税込み)	契約の日から1年間	信用調査委託基本契約
2025年6月27日	理事及び監事(非常勤)	—	任期期間	責任限定契約
2025年9月26日*	株式会社時事通信社	2,700万円(税込)	契約の日から 2026年3月31日	FGFおよびTAMF等 運營業務委託
2025年9月30日	東京海上日動火災保険株式会社	258,970円(税込)	契約の日から1年間	会社役員賠償責任保険
2026年2月27日	理事(非常勤)	—	任期期間	責任限定契約

当法人の2025年度末現在の会員数は、次の表に掲げるとおり正会員19社、賛助会員25社、新興企業会員8社、特別会員4社である。

種類	2024年度末	2025年度末	増減
正会員	20社	19社	-1社
賛助会員	27社	25社	-2社
新興企業会員	8社	8社	0社
特別会員	4社	4社	0社
合計	59社	56社	-3社

(再掲)

正会員 19社

1	アライアンス・バーンスタイン株式会社	11	株式会社日本取引所グループ
2	LSEG	12	ニューホライズン キャピタル株式会社
3	株式会社かんぽ生命保険	13	野村ホールディングス株式会社
4	株式会社QUICK	14	平和不動産株式会社
5	西武信用金庫	15	株式会社みずほ銀行
6	株式会社大和証券グループ本社	16	株式会社三井住友銀行
7	東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社	17	三井住友トラストグループ株式会社
8	東京都	18	株式会社三菱UFJ銀行
9	日本証券業協会	19	モルガン・スタンレー・ホールディングス株式会社
10	株式会社日本政策投資銀行		

賛助会員 25社

1	アセットマネジメントOne株式会社	14	ナティクス日本証券株式会社
2	渥美坂井法律事務所弁護士法人	15	株式会社日本資産運用基盤グループ
3	アフラック生命保険株式会社	16	日本生命保険相互会社
4	SS&C Fund Services (Asia) Limited	17	農林中央金庫
5	エバコア・ジャパン株式会社	18	株式会社野村総合研究所
6	クレアブ株式会社	19	VISTRA Japan株式会社
7	KPMGコンサルティング株式会社	20	PwC Japan合同会社
8	株式会社時事通信社	21	フィデリティ投信株式会社
9	ソシエテ・ジェネラル証券株式会社	22	三井不動産株式会社
10	短資協会	23	森ビル株式会社
11	Two Sigma Japan, Ltd.	24	ユーロクリア・バンク SA/NV 日本支店
12	DBS Bank (Hong Kong) Limited	25	REVOLUT TECHNOLOGIES JAPAN株式会社
13	一般社団法人投資信託協会		

新興企業会員 8社

1	INCITE Consulting株式会社
2	FNZ Japan株式会社
3	株式会社Diagonal
4	De Capital株式会社
5	TempestAI株式会社
6	日本PMIパートナーズ株式会社
7	Visual Alpha株式会社
8	LUCAジャパン株式会社

特別会員 4社

1	上智大学
2	国立大学法人 東京大学
3	東京都立大学
4	東京理科大学

職員に関する事項

今年度末の事務局の要員は、事務局長以下、他の機関等からの出向職員及び派遣社員等を含み総勢12名。主要な職員は以下のとおり。

職名等	氏名	就任年月日	担当事務
事務局長	増田 剛	2023年7月1日	事務局業務全般
事務局次長	飛田 亮	2024年4月1日	総務事務総括
事務局次長	大山 智子	2024年7月1日	事業総括

役員会等に関する事項 理事会

開催(同意)年月日	議事事項	会議の結果
2025年6月12日	【決議事項】 2024年度事業報告書及び計算書類の承認の件 2025年度第1回社員総会招集の件 - 会員入会及び種別変更の可否の件 【報告事項】 - 代表理事及び専務理事の職務の執行状況 2024年度コンプライアンス委員会の活動状況 - 個別事業進捗	いずれも可決
2025年6月27日	【決議事項】 - 代表理事選定の件 - 専務理事選定の件 - 責任限定契約の件 - 理事が取引の相手方代理人である取引の報告の件	いずれも可決
2025年9月18日	【決議事項】 - 役員賠償責任保険(D&O保険)の付保の件 【報告事項】 - 代表理事及び専務理事の職務の執行状況 - 個別事業進捗	いずれも可決

役員会等に関する事項 理事会

開催(同意)年月日	議事事項	会議の結果
2025年12月19日	【決議事項】 1. 会員入会可否決定の件 2. 利害関係者との取引の承認の件 【報告事項】 1. 代表理事及び専務理事の職務の執行状況 2. (一社)資産運用フォーラムへの加入について 3. 来年度事業の方向性について 4. 個別事業進捗	いずれも可決
2026年2月10日	【決議事項】 1. 社員総会決議事項に係る提案書の件 2. 責任限定契約の件	いずれも可決
2026年3月27日	【決議事項】 1. 2026年度事業計画書及び収支予算書の承認の件 2. 2026年度事業者選定の件 3. 社員総会決議事項に係る提案書の件 4. 責任限定契約の件 5. 会員入会及び種別変更の可否の件 【報告事項】 1. 会員の退会について 2. 会員の届出事項変更について 3. 代表理事及び専務理事の職務の執行状況 4. 個別事業進捗	いずれも可決

役員会等に関する事項 社員総会

開催(同意)年月日	議事事項	会議の結果
2025年4月14日	【決議事項】 1. 理事(非常勤)選任の件	可決
2025年6月27日	【決議事項】 1. 2024 年度計算書類の承認の件 2. 理事及び監事の選任の件 【報告事項】 1. 2024年度事業報告 2. 2025年度事業計画書及び収支予算書	いずれも可決
2026年2月27日	【決議事項】 1. 理事(非常勤)選任の件	可決

来年度に向けた取組みの方向性

2025年度も積極的に海外プロモーション活動に取り組み、ニューヨーク・ロンドン・シンガポール・ドバイ・アブダビなど、各金融都市へのロードショーを行った。海外投資家から東京への注目が集まっている中、会員企業等と連携しながら各金融センターへのプロモーション活動を実施できたことは、有意義な成果であった。

来年度は、当法人の設立趣旨に立ち返り、海外ロードショーの更なる充実や現地メディア向けラウンドテーブルの拡充のほか、当法人の旗艦イベントである「FinCity Global Forum」のニューヨーク開催など国内外でのプロモーション活動を一層強化していく。

あわせて、MoUネットワークを単年度の交流にとどめず複数年度を見据えた継続的な連携へと発展させ、相互のイベント登壇・共催や東京・現地双方向での共同発信を通じ、プロモーション効果の最大化を図っていく。

また、事業の推進に当たっては、改めて東京都との役割分担の見直しを行うとともに、事業ターゲットの明確化を図り、当法人が担う事業の整理を行う。

なお、円安や物価高の影響も引き続き無視できない水準であり、諸経費の高騰が見込まれるが、費用対効果の精査を図りながら、プロモーション効果の高いイベント等には積極的に参加し、着実に活動を行っていく。

会員基盤の強化に向けては、地域金融機関を含む新規会員の獲得や会員層の多様化に取り組み、2026年度には会員数の増加が見込まれる状況となっている。引き続き、加入メリットの明確化や会員間のネットワーキング充実を通じ、組織力の一層の向上を図っていく。

2. 役員に関する事項

今年度における当法人の役員(理事及び監事)に関する事項は以下のとおり。

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬の有無	他の法人等の代表状況
代表理事 (会長)	中曾 宏	2025年6月～ 2027年6月	非常勤	有	株式会社大和総研 理事長
専務理事	森田 宗男	〃	常勤	有	SMBC日興証券株式会 社外取締役(取締役会議長)
理事	安東 泰志	〃	非常勤	無	ニューホライズンキャピタル株式会社 代表取締役会長
〃	飯山 俊康	〃	〃	〃	野村ホールディングス株式会社 執行役副社長(チーフ・オブ・スタッフ兼中国委員会主席)
〃	上野 義明	〃	〃	〃	株式会社三菱UFJ銀行 取締役常務執行役員 Deputy CSO
〃	小森 敬介	〃	〃	〃	株式会社QUICK 取締役(経営企画統括・グループ連携担当)
〃	阪口 和子	〃	〃	〃	アライアンス・バーンスタイン株式会社 代表取締役社長
〃	佐藤 英二	〃	〃	〃	株式会社大和証券グループ本社 取締役兼専務執行役
〃	佐藤 昌孝	〃	〃	〃	東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社 会長補佐
〃	関口 尚志	〃	〃	〃	東京都産業労働局次長 (産業労働局理事(国際金融都市推進担当))
〃	高橋 一郎	2026年2月～ 2027年6月	〃	〃	西武信用金庫 理事長

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬の有無	他の法人等の代表状況
理事	田村 浩四郎	2025年6月～ 2027年6月	非常勤	無	モルガン・スタンレー・ホールディングス株式会社 代表取締役社長
〃	中尾 友治	〃	〃	〃	平和不動産株式会社 代表執行役専務(ビルディング事業部管掌)
〃	服部 経治	〃	〃	〃	Sixth Street Japan K.K.日本代表マネージング・ディレクター キャピタルフォーメーション&ストラテジー
〃	原田 文代	〃	〃	〃	株式会社日本政策投資銀行 常務執行役員(GX関連部署統括、 企業金融第4部・企業金融第5部補佐、南九州支店、産業調査部、 地域調査部担当)
〃	春名 貴之	〃	〃	〃	株式会社かんぽ生命保険 専務執行役
〃	菱田 賀夫	〃	〃	〃	三井住友トラストグループ株式会社 執行役員GAMO(Global Asset Management Officer)
〃	平山 竜	〃	〃	〃	LSEG 日本代表
〃	森本 健一	〃	〃	〃	日本証券業協会 政策本部共同本部長(企画担当)
〃	吉田 正紀	〃	〃	〃	株式会社日本取引所グループ 執行役(サステナビリティ推進・広 報・IR担当)
監事	金久 直樹	2025年6月～ 2029年6月	〃	〃	渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 シニアパートナー 弁護士
〃	清水 毅	2023年6月～ 2027年6月	〃	〃	一般社団法人投資信託協会 グローバル・リサーチ・オフィサー 公認会計士

今年度における当法人の退任した役員に関する事項は以下のとおり。

氏名	退任時の地位	退任日	退任理由
有友 圭一	専務理事	2025年6月27日	一身上の都合により辞任
安地 和之	理事	//	//
佐藤 理郎	//	//	//
富田 秀夫	//	//	//
鈴木 由里	監事	2025年6月27日	//

今年度における当法人の役員の報酬等に関する事項は以下のとおり。

区分	人数	報酬等の総額	備考
理 事	2名	15, 000千円	—
監 事	0名	—	—
合 計	2名	15, 000千円	—

(注)理事の報酬限度額は、2019年4月25日開催の第1回社員総会において承認された役員報酬等支給規程において、年額1800万円以内と決議されている。

3. 業務の適正を確保するための体制等の整備 についての決議内容の概要

業務の適正を確保するための体制等の整備についての決議内容の概要

今年度は、業務の適正を確保するための体制等(内部統制システム)の整備についての決議はなされていない。

今年度事業報告には、事業報告の内容を補足する重要な事項は特にないため、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書は作成していない。

以上